

第 3 章

レバノンの政治主体（資料）

末近 浩太・青山 弘之

要約：

本章では、レバノンの権力構造がいかなる政治主体によって構成されているのかを具体的に把握するため、同国の大統領、国民議会、内閣、政党・政治組織、政治同盟、宗教機関、治安組織を一覧する。

キーワード：

国民議会、政治主体、政治同盟、政党・政治組織、大統領、治安組織、内閣、レバノン

1. 大統領

氏名	就任年月
エミール・ラフード大統領 (出所) 筆者作成。	1998 年 11 月

2. 国民議会

(1) 選挙区区割り，宗派別の議席配分

(a) 第14期，第15期国民議会選挙（1992年，1996年）

選挙区	定数	イスラーム教					キリスト教					
		スンナ派	シーア派	ドゥルーズ派	アラウイー派	マロン派	ギリシヤ正教	ギリシヤ・カトリック	アルメニア正教	アルメニア・カトリック	福音派	マイノリティ
ベイルート県	19	6	2	1		1	2	1	3	1	1	1
レバノン山地県ジュベイル郡	3		1			2						
レバノン山地県カスラワン郡	5					5						
レバノン山地県マトン郡	8					4	2	1	1			
レバノン山地県バアブダー郡	6		2	1		3						
レバノン山地県アレイ郡	5			2		2	1					
レバノン山地県シューフ郡	8	2		2		3		1				
北部県	アッカル郡	7	3		1	1	2					
	ディンニヤ郡(現ミシャ郡を含む)	3	3									
	ビシャッリー郡	2				2						
	トリポリ郡	8	5		1	1	1					
	ズガルター郡	3				3						
	バトルーン郡	2				2						
	クーラ郡	3					3					
南部県・ナバティーヤ県	サイダー郡	2	2									
	ザフラーニー郡(サイダー周辺村)	3		2				1				
	スール郡	4		4								
	ビント・ジュベイル郡	3		3								
	マルジャアユーン郡，ハースバイヤー郡	5	1	2	1		1					
	ナバディーヤ郡	3		3								
	ジェッズイーン郡	3				2		1				
ベカーア県	バアルベック郡，ヘルメル郡	10	2	6		1		1				
	ザフレ郡	7	1	1		1	1	2	1			
	西ベカーア郡，ラーシャイヤー郡	6	2	1	1	1	1					
総計	128	27	27	8	2	34	14	8	5	1	1	1
		64					64					

（出所） ‘Allām [1997: 56-57]をもとに筆者作成。

第 14 期, 第 15 期国民議会選挙における選挙区区割り(地図)



(出所) 'Allam [1997: 56-57]をもとに筆者作成。

(b) 第 16 期, 第 17 期国民議会選挙 (2000 年, 2005 年)

選挙区	郡(地区)	定数	イスラム教					キリスト教					
			スンナ派	シーア派	ドゥルーズ派	アラウイー派	マロン派	ギリシヤ正教	ギリシヤ・カトリック	アルメニア正教	アルメニア・カトリック	福音派	マイノリティ
バイルート県第 1 区	アシュラフィヤ地区, マズラア地区, サイフィー地区	6	2				1	1	1			1	
バイルート県第 2 区	バーシュラ地区, ルマイル地区, ムサイトバ地区	6	2	1				1		1			1
バイルート県第 3 区	バイルート岬, ダール・アル＝ムライサ地区, ミナー・アル＝フスン地区, マルフア地区, ゼカーカ・アル＝ブラート地区, ムダウワル地区	7	2	1	1					2	1		
レバノン山地県第 1 区	ジュベイル郡	8	3		1			2					
	カスラワーン郡		5				7	5					
レバノン山地県第 2 区	マトン郡	8					4	2	1	1			
レバノン山地県第 3 区	バアブダー郡	11	6		2	1		3	1				
	アレイ郡		5			3	2	5	2	1	1		
レバノン山地県第 4 区	シューフ郡	8	2		2		3		1				
北部県第 1 区	アッカル郡	11	7	3			1	1	2				
	ディンニヤ郡		2	5	2		1	3	2				
	ビシャッリー郡		2					2					
北部県第 2 区	トリボリ郡	17	8	5			1	1	1				
	ミンヤ郡		1	1									
	ズガルター郡		3	6			1	6	3	4			
	バトルーン郡		2					2					
	クーラ郡		3						3				
南部県・ナバティーヤ県第 1 区	サイダー郡	12	2	2									
	ザフラニー郡		3		9				1	1			
	スール郡		4										
	ピント・ジュベイル郡		3		3								
南部県・ナバティーヤ県第 2 区	マルジャアユーン郡, ハースバイヤー郡	11	5	1	2	1			1				
	ナバティーヤ郡		3	1	5	3	1		1				
	ジェズズイン郡		3					2		1			
ベカーア県第 1 区	バアルベック郡, ヘルメル郡	10	2	6			1		1				
ベカーア県第 2 区	ザフレ郡	7	1	1			1	1	2	1			
ベカーア県第 3 区	西ベカーア郡, ラーシヤイヤー郡	6	2	1	1		1	1					
総計		128	27	27	8	2	34	14	8	5	1	1	1
			64			64							

(出所) 2000 年 1 月 6 日法律第 171 号をもとに筆者作成。

第 16 期, 第 17 期国民議会選挙における選挙区区割り(地図)



(出所) 2000 年 1 月 6 日法律第 171 号をもとに筆者作成。

(2) リスト別獲得議席数一覧

(a) 第15期国民議会選挙（1996年）

リスト名	選挙区	議席数
解放開発リスト(Lā'iḥa al-Taḥrīr wa al-Tanmiya)	南部県・ナバティーヤ県	21
和解国民統一リスト(Lā'iḥa al-Wifāq wa al-Waḥda al-Waṭaniya)	ベカーア県	21
国民団結リスト(Lā'iḥa al-Taḍāmūn al-Waṭanī)	北部県	17
ベイルート決定リスト(Lā'iḥa Qarār Bayrūt)	ベイルート県	14
開発変化リスト(Lā'iḥa al-Inmā' wa al-Taghyīr)	北部県	10
国民闘争戦線リスト(Lā'iḥa Jabha al-Niḍāl al-Waṭanī)	レバノン山地県シューフ郡	8
国民穏健リスト(Lā'iḥa al-'itidāl al-Waṭanī)	レバノン山地県マトン郡	7
国民融合リスト(Lā'iḥa al-Inṣihār al-Waṭanī)	レバノン山地県バアブダー郡	5
統一開発リスト(Lā'iḥa al-Waḥda wa al-Inmā')	レバノン山地県アレイ郡	4
カスラワーン勝利リスト(Lā'iḥa Kisrawān – al-Futūḥ)	レバノン山地県カスラワーン郡	3
自由カスラワーン決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār al-Kisrawānī al-Hurr)	レバノン山地県カスラワーン郡	2
ジュベイルの意思リスト(Lā'iḥa al-Wa'y al-Jubaylī)	レバノン山地県ジュベイル郡	2
国民決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār al-Waṭanī)	北部県	2
アレイ議員リスト(Lā'iḥa Nūwāb 'Ālayh)	レバノン山地県アレイ郡	1
救済変化リスト(Lā'iḥa al-Inqādh wa al-Taghyīr)	ベイルート県	1
国民決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār al-Waṭanī)	レバノン山地県ジュベイル郡	1
人民リスト(Lā'iḥa al-Sha'b)	ベイルート県	1
人民リスト(Lā'iḥa al-Sha'b)	レバノン山地県マトン郡	1
人民の意思への忠誠リスト(Lā'iḥa al-Wafā' li-Irāda al-Sha'b)	ベカーア県	1
和解刷新リスト(Lā'iḥa al-Wifāq wa al-Tajdīd)	レバノン山地県バアブダー郡	1
無所属	ベイルート県, 南部県・ナバティーヤ県, ベカーア県	5

（出所） Nāṣīf and Bū Munṣif [1996], Sālim [1998], <http://www.lebanon.com/>（2006年10月アクセス）, <http://www.lebvote.com/>（2006年10月アクセス）, <http://www.lp.gov.lb/>（2006年10月アクセス）などをもとに筆者作成。

(b) 第16期国民議会選挙（2000年）

リスト名	選挙区	議席数
抵抗開発リスト(Lā'iḥa al-Muqāwama wa al-Tanmiya)	南部県・ナバティーヤ県第1区, 第2区	23
ベイルート尊厳リスト(Lā'iḥa Karāma Bayrūt)	ベイルート県第1区, 第2区, 第3区	17
団結開発リスト(Lā'iḥa al-Taḍāmūn wa al-Inmā')	北部県第2区	14
バアルベック・ヘルメル・リスト(Lā'iḥa Ba'lbak – al-Hirmil)	ベカーア県第1区	10

リスト名	選挙区	議席数
国民闘争戦線リスト(Lā'iḥa Jabha al-Niḍāl al-Waṭanī)	レバノン山地県第4区	8
山地統一リスト(Lā'iḥa Waḥda al-Jabal)	レバノン山地県第3区	8
人民ブロック・リスト(Lā'iḥa al-Kutla al-Sha'bīya)	ベカーア県第2区	7
決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār)	ベカーア県第3区	6
連立リスト(Lā'iḥa al-I'tilāfiya)	北部県第1区	6
尊厳刷新リスト(Lā'iḥa al-Karāma wa al-Tajaddud)	レバノン山地県第1区	5
マトン合意リスト(Lā'iḥa al-Wifāq al-Matnī)	レバノン山地県第2区	5
人民の意志リスト(Lā'iḥa al-Irāda al-Sha'bīya)	北部県第1区	4
合意刷新リスト(Lā'iḥa al-Wifāq wa al-Tajaddud)	レバノン山地県第3区	3
人民決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār al-Sha'bī)	レバノン山地県第1区	3
国民尊厳リスト(Lā'iḥa al-Karāma al-Waṭanīya)	北部県第2区	2
祖国尊厳リスト(Lā'iḥa Karāma al-Waṭan)	ベイルート県第2区	1
自由リスト(Lā'iḥa al-Ḥurriya)	レバノン山地県第2区	1
レバノン・リスト(Lā'iḥa Lubnān)	レバノン山地県第2区	1
無所属	ベイルート県第2区, レバノン山地県第2区, 北部県第1区, 北部県第2区	4

(出所) 青山 [2006a] [2006b], ArabicNews.com [2000a] [2000b], <http://www.arabdecision.org/> (2006年10月アクセス), <http://www.lebanonelect.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.libanvote.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.lp.gov.lb/> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(c) 第17期国民議会選挙 (2005年)

リスト名	選挙区	議席数
抵抗解放開発リスト(Lā'iḥa al-Muqāwama wa al-Taḥrīr wa al-Tanmiya)	南部県・ナバティーヤ県第1区, 第2区	23
殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト(Lā'iḥa al-Wafā' li-l-Shahīd Rafīq al-Ḥarīrī)	ベイルート県第1区, 第2区, 第3区	19
和解改革リスト(Lā'iḥa al-Muṣālaḥa wa al-Iṣlāḥ)	北部県第2区	17
変化改革リスト(Lā'iḥa al-Taghyīr wa al-Iṣlāḥ)	レバノン山地県第1区, 第2区	15
国民統一3月14日リスト(Lā'iḥa al-Waḥda al-Waṭanīya - 14 Ādhār)	北部県第1区	11
山地統一リスト(Lā'iḥa Waḥda al-Jabal)	レバノン山地県第3区	11
ベカーア開発リスト(Lā'iḥa Inmā' al-Biqā')	ベカーア県第1区	10
国民闘争戦線リスト(Lā'iḥa Jabha al-Niḍāl al-Waṭanī)	レバノン山地県第4区	8
人民ブロック・リスト(Lā'iḥa al-Kutla al-Sha'bīya)	ベカーア県第2区	6
国民決定リスト(Lā'iḥa al-Qarār al-Waṭanī)	ベカーア県第3区	6
ベカーア尊厳和解リスト(Lā'iḥa al-Karāma wa al-Wifāq al-Biqā'ī)	ベカーア県第2区	1
野党統一リスト(Lā'iḥa Waḥda al-Mu'āraḍa)	レバノン山地県第2区	1

(出所) 青山 [2006b]などをもとに筆者作成。

(3) ブロック，政党・政治組織別獲得議席数一覧

(a) 第16期国民議会（2000年）

国民議会会派名	政党・政治組織名（ないしは代表名）	議席数
抵抗開発ブロック (Kutla al-Muqāwama wa al-Tanmiya)	アマル運動	17
ベイルート決定ブロック (Kutla Qarār Bayrūt)	ラフィーク・ハリリー	17
民主会合ブロック (Kutla al-Liqā' al-Dīmuqrāṭī)	進歩社会主義党	17
抵抗への忠誠ブロック (Kutla al-Wafā' li-l-Muqāwama)	ヒズブッラー	12
北部ブロック (Takattul al-Shamāl)	スライマーン・フランジーヤ	9
クルナト・シャフワーン会合ブロック (Kutla Liqā' Qurna Shahwān)	クルナト・シャフワーン会合	5
シリア民族社会党ブロック (Kutla al-Ḥizb al-Sūrī al-Qawmī al-Ijtimā'ī)	シリア民族社会党	4
西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック (Kutla al-Biqā' al-Gharbī wa Rāshayyā)	アブドゥッラヒーム・ムラード	4
マトン・ブロック (Kutla al-Matn)	ミシェル・ムッル	4
人民決定ブロック (Kutla al-Qarār al-Sha'bī)	ファーリス・ブワイズ	3
トリポリ・ブロック (al-Takattul al-Ṭarābulī)	ムハンマド・カッバーラ	3
人民ブロック (al-Kutla al-Sha'bīya)	イリヤース・スカーフ	2
バアス党ブロック (Kutla Ḥizb al-Ba'ṭh al-'Arabī al-Ishṭirākī)	バアス党	2
民主刷新運動ブロック (Kutla Ḥaraka al-Tajaddud al-Dīmuqrāṭī)	民主刷新運動	2
無所属		27

（出所）<http://www.arabdecision.org/>（2006年10月アクセス）などをもとに筆者作成。

(b) 第17期国民議会（2005年）

国民議会会派名	政党・政治組織名（ないしは代表名）	議席数
ムスタクバル・ブロック (Kutla al-Mustaqbal)	ムスタクバル潮流，アルメニア社会民主ハンチャク党，ラームガヴァーン党，無所属	37
変化改革ブロック (Kutla al-Taghyīr wa al-Iṣlāh) ^(a)		21
自由国民潮流	自由国民潮流，キリスト民主党	14
人民ブロック	イリヤース・スカーフ	5
マトン・ブロック	ターシュナーク党，無所属（ミシェル・ムッル）	2
開発解放ブロック (Kutla al-Tanmiya wa al-Taḥrīr)	アマル運動	15
民主会合ブロック	進歩社会主義党	15
抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー	14
レバノン軍団ブロック (Kutla al-Qūwāt)	レバノン軍団	6

国民議会会派名	政党・政治組織名(ないしは代表名)	議席数
al-Lubnāniya) ^(a)		
クルナト・シャフワーン会合ブロック	クルナト・シャフワーン会合	5
トリポリ無所属ブロック(al-Takattul al-Ṭarābulṣī al-Mustaḳill)	ムハンマド・カッバーラ	4
カタールイブ改革運動ブロック(Kutla al-Ḥaraka al-Iṣlāḥīya al-Katā'ib)	カタールイブ改革運動 ^(b)	2
民主刷新運動ブロック	民主刷新運動	1
民主左派運動ブロック(Kutla Ḥaraka al-Yasār al-Dīmuqrāṭī)	民主左派運動	1
シリア民族社会党ブロック	シリア民族社会党	2
バアス党ブロック	バアス党	1
レバノン・カタールイブ党ブロック(Kutla Ḥizb al-Katā'ib al-Lubnāniya)	レバノン・カタールイブ党 ^(b)	1
無所属		3

(注) (a) エドモーン・ナイームの死去とピエール・ダッカーシュの議員就任により、変化改革ブロックは22議席に、レバノン軍団ブロックは5議席となる。

(b) カタールイブ改革運動とレバノン・カタールイブ党は2005年11月に統一し、レバノン・カタールイブ党となる。

(出所) al-Ḥayāt [2005a]をもとに筆者作成。

(4) 国民議会議員氏名一覧

(a) 第15期国民議会

投票日：レバノン山地県1996年8月18日，北部県1996年8月25日，ベイルート県1996年9月1日，南部県，ナバティヤー県1996年9月8日，ベカーア県1996年9月15日

任期：1996年10月15日～2000年10月15日

選挙区	宗派	氏名	所属リスト
ベイルート県	スンナ派	アドナーン・アラクジー	ベイルート決定リスト
		バハッディーン・イーターニー	ベイルート決定リスト
		タマーム・サラーム	無所属
		サリーム・ディヤーブ	ベイルート決定リスト
		ラフィーク・ハリリー	ベイルート決定リスト
		サリーム・フッス	救済変化リスト
	シーア派	ムハンマド・ユースフ・バイドウーン	救済変化リスト
		フサイン・ヤティーム	ベイルート決定リスト
	ドゥルーズ派	ハーリド・サアブ	ベイルート決定リスト
	マロン派	ガッサーン・マタル	無所属
	ギリシャ正教	ビジャーラ・ムルヒジュ	ベイルート決定リスト
		ナジャーフ・ワーキーム	人民リスト
	ギリシャ・カトリック	ミシェル・フィルアウン	ベイルート決定リスト
	アルメニア正教	ヤギヤー・ジョルジヤーン	ベイルート決定リスト

選挙区	宗派	氏名	所属リスト
		アゴブ・ディマルジヤーン	ベイルート決定リスト
		ハーチーク・バーブキヤーン	ベイルート決定リスト
	アルメニア・カトリック	ハゴブ・ジュハダリヤーン	ベイルート決定リスト
	福音派	エブラー・ハーム・ダドヒヤーン	ベイルート決定リスト
	マイノリティ	ジャミール・シャンマース	ベイルート決定リスト
レバノン山地県ジュベイル郡	シーア派	マフムード・アウワード	国民決定リスト
	マロン派	ニハード・ジュルマーヌース	ジュベイルの意思リスト
		エミール・ヌーフアル	ジュベイルの意思リスト
レバノン山地県カスラワーン郡	マロン派	カミール・ズィヤーダ	カスラワーン勝利リスト
		イリヤース・ハーズィン	自由カスラワーン決定リスト
		ラシード・ハーズィン	カスラワーン勝利リスト
		ファーリス・ブワイズ	自由カスラワーン決定リスト
		マンスール・ブーン	カスラワーン勝利リスト
レバノン山地県マトン郡	マロン派	ガッサーン・アシュカル	国民穏健リスト
		シャーキル・アブー・スライマーン	国民穏健リスト
		ハビーブ・ハキーム	国民穏健リスト
		ナスィーブ・ラッファード	人民リスト
	ギリシヤ正教	ミシェル・ムツル(副議長)	国民穏健リスト
		ラージー・アビー・ハイダル	国民穏健リスト
	ギリシヤ・カトリック	アントワーン・ハッダード	国民穏健リスト
レバノン山地県パアブダー郡	アルメニア正教	セブーフ・ホヴナーニアー	国民穏健リスト
	シーア派	バースィム・サブア	国民融合リスト
		サラーフ・ハラカ	国民融合リスト
	ドゥルーズ派	アイマン・シュカイル	国民融合リスト
	マロン派	ジャーン・ガーニム	国民融合リスト
		ピエール・ダッカーシュ	和解刷新リスト
レバノン山地県アレイド郡		イリヤース・フバイカ	国民融合リスト
	ドゥルーズ派	タラール・アルスラーン	アレイ議員リスト
		アクラム・シュハイイブ	統一開発リスト
	マロン派	アブドゥー・バジャーニー	統一開発リスト
		アントワーン・ハッティー	統一開発リスト
	ギリシヤ正教	アントワーン・アンドラーウス	統一開発リスト
レバノン山地県シューフ郡	スンナ派	ザーヒル・ハティーブ	国民闘争戦線リスト
		アラッディーン・ティッラー	国民闘争戦線リスト
	ドゥルーズ派	ワリード・ジュンブラート	国民闘争戦線リスト
		マルワーン・ハマーダ	国民闘争戦線リスト
	マロン派	ワディーウ・アクル	国民闘争戦線リスト
		ジョルジュ・ニウマ	国民闘争戦線リスト
		ナビル・ブスターニー	国民闘争戦線リスト
	ギリシヤ・カトリック	ハリール・アブドゥンヌール	国民闘争戦線リスト
北部県(アッカール郡)	スンナ派	ハーリド・ダーヒル	開発変化リスト
		ワジーフ・バアリーニー	国民団結リスト
		タラール・マルアビー	国民団結リスト

選挙区	宗派	氏名	所属リスト
	アラウィー派	アブドゥッラフマーン・アブドゥッラフマーン	国民団結リスト
	マロン派	ファウズィー・フバイシュ	国民団結リスト
	ギリシャ正教	リヤード・サッラーフ	開発変化リスト
		イサーム・ファーリス	国民団結リスト
北部県(ディンニヤー郡)	スンナ派	ジハード・アブドゥッサマド	国民団結リスト
		サーリフ・ハイイル	国民団結リスト
		アフマド・ファトファト	開発変化リスト
北部県(ビシャッリー郡)	マロン派	ジュブラーン・タウク	開発変化リスト
		カバラーン・フーリー	国民団結リスト
北部県(トリポリ郡)	スンナ派	ムハンマド・ミスバーフ・アフダブ	国民決定リスト
		ムハンマド・カッバーラ	国民団結リスト
		アフマド・カラーミー	開発変化リスト
		ウマル・カラーミー	国民団結リスト
		ウマル・ミスカウイー	開発変化リスト
	アラウィー派	アフマド・ハッブーシュ	開発変化リスト
	マロン派	ジャーン・ウバイド	国民団結リスト
	ギリシャ正教	モリース・ファーディル	開発変化リスト
北部県(ズガルター郡)	マロン派	サムアーン・ドゥワイヒー	国民団結リスト
		スライマーン・フランジーヤ	国民団結リスト
		ナーイラ・ムアウワド	国民団結リスト
北部県(バトルン郡)	マロン派	ブトルス・ハルブ	国民決定リスト
		サーイド・アクル	国民団結リスト
北部県(ケーラ郡)	ギリシャ正教	ニコラー・グスン	開発変化リスト
		ファーイズ・グスン	国民団結リスト
		ファリード・マカーリー	国民団結リスト
南部県・ナバティーヤ県(サイダー郡)	スンナ派	ムスタファー・サアド	無所属
		バヒーヤ・ハリリー	無所属
南部県・ナバティーヤ県(ザフラーニ郡)	シーア派	アリー・ウサイラーン	解放開発リスト
		ナビーフ・ビッリー(議長)	解放開発リスト
	ギリシャ・カトリック	ミシェル・ムーサー	解放開発リスト
南部県・ナバティーヤ県(スール郡)	シーア派	アブドゥッラー・カイサル	解放開発リスト
		ムハンマド・ユースフ・バイドゥーン	解放開発リスト
		アリー・ユースフ・ハリール	解放開発リスト
		アリー・フライス	解放開発リスト
南部県・ナバティーヤ県(ピント・ジュバイル郡)	シーア派	ハサン・アラウィーヤ	解放開発リスト
		ムハンマド・フナイシュ	解放開発リスト
		アイユーブ・フマイド	解放開発リスト
南部県・ナバティーヤ県(マルジャアユーン郡, ハースバイヤー郡)	スンナ派	アフマド・スワイド	解放開発リスト
	シーア派	ナズィーフ・マンスール	解放開発リスト
		アリー・ハサン・ハリール	解放開発リスト
	ドゥルーズ派	アンワル・ハリール	解放開発リスト
	ギリシャ正教	アスアド・ハルダーン	解放開発リスト

選挙区	宗派	氏名	所属リスト
南部県・ナバティヤ県(ナバティヤ郡)	シー派	アブドゥッラティーフ・ザイン	解放開発リスト
		ヤースイーン・ジャービル	解放開発リスト
		ムハンマド・ラアド	解放開発リスト
南部県・ナバティヤ県(ジエズイーン郡)	マロン派	サミール・アーザール	解放開発リスト
		スライマーン・カナアーン	解放開発リスト
	ギリシャ・カトリック	ナディーム・サーリム	解放開発リスト
ベカーア県(バアルベック郡, ヘルメル郡)	スンナ派	イスマーイール・スッカリーヤ	無所属
		イブラーヒーム・バヤーン	和解国民統一リスト
	シー派	アースィム・カーンスーフ	和解国民統一リスト
		イブラーヒーム・サイイド	和解国民統一リスト
		ガーズィー・ズアイティル	和解国民統一リスト
		フサイン・ハサン	和解国民統一リスト
		フサイン・フサイニー	和解国民統一リスト
		アンマール・ムーサウィー	和解国民統一リスト
	マロン派	ラビーア・カイルーズ	和解国民統一リスト
	ギリシャ・カトリック	マルワーン・ファールリス	和解国民統一リスト
ベカーア県(ザフレ郡)	スンナ派	ムハンマド・アリー・マイス	和解国民統一リスト
	シー派	ムフスィン・ダッルール	和解国民統一リスト
	マロン派	ハリール・ヒラーウィー	和解国民統一リスト
	ギリシャ正教	シャウキー・ファーフォーリー	和解国民統一リスト
	ギリシャ・カトリック	イリヤース・スカーフ	和解国民統一リスト
		ニコラー・ファットウーシュ	和解国民統一リスト
	アルメニア正教	ジョルジュ・カッサールジー	和解国民統一リスト
ベカーア県(西ベカーア郡, ラーシャイー郡)	スンナ派	サーミー・ハティーブ	和解国民統一リスト
		アブドゥッラヒーム・ムラード	和解国民統一リスト
	シー派	マフムード・アブー・ハムダーン	和解国民統一リスト
	ドゥルーズ派	ファイサル・ダーウード	和解国民統一リスト
	マロン派	ヘンリー・シャディード	人民の意思への忠誠リスト
	ギリシャ正教	エリー・ファルズリー	和解国民統一リスト

(出所) Nāṣīf and Bū Munṣif [1996], Sālim [1998], <http://www.lebanon.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.lebvote.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.lp.gov.lb/> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(b) 第16期国民議会

投票日：2000年8月28日レバノン山地，北部県，9月3日ベイルート県，南部県，ナバティヤ県，ベカーア県

任期：2000年10月15日～2005年5月31日

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
ベイルート県第1区 (アシュラフイーヤ地区，マズラ地区，サイフイー地区)	スンナ派	ラフィーク・ハリリー(a)	ベイルート尊厳リスト	ベイルート決定ブロック(代表)	
		アドナーン・アラクジー(b)	ベイルート尊厳リスト	ベイルート決定ブロック	

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
	マロン派	ガッターズ・フリー	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	ギリシャ・カトリック	ミシエル・フィルアウン	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	ギリシャ正教	アーティフ・マジュダラー ニー	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	プロテスタント	バースシル・フライハー ン(c)	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
バイルート県第2区 (バーシュラ地区、ルマ イル地区、ムサイトバ地 区)	スンナ派	ワリード・アيدゥー	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
		バースィム・ヤムート(b)	祖国尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	シーア派	ムハンマド・バルジャーウ イー	無所属	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
	ギリシャ・カトリック	ナビール・ドゥ・フライジュ	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	ギリシャ正教	ビシャーラ・ムルヒジュ	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	アルメニア正教	ヤギヤー・ジョルジヤーン	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	アルメニア社会民主 ハンチャク党
バイルート県第3区 (バイルート岬、ダール・ア ル＝ムタイサ地区、ミナー ー・アル＝フスン地区、マ ルファア地区、ズカーク・ アル＝ブラート地区、ムダ ウワル地区)	スンナ派	ムハンマド・ジャミール・ カッパニー	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
		ガスワ・ジャッルール	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
	シーア派	ナーシル・キンディール	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	労働者連盟
	ドゥルーズ派	ガーズィー・アリーディー	バイルート尊厳リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	アルメニア正教	ジャーン・オガーサービ ヤーン	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	
		ハゴブ・カサルジヤーン	バイルート尊厳リスト	バイルート決定ブロック	ラームガヴァーン党
レバノン山地県第1区 (ジュベイル郡)	マロン派	ナーズィム・フリー	尊厳刷新リスト	無所属	
		ファーリス・スアイド	尊厳刷新リスト	クルナト・シャフワーン会合 ブロック	
	シーア派	アッバース・ハーシム	人民決定リスト	人民決定ブロック	
レバノン山地県第1区 (カスラワーン郡)	マロン派	ファリード・ハーズィン	人民決定リスト	人民決定ブロック	
		ジョルジュ・フラーム	尊厳刷新リスト	無所属	
		マンスール・ブーン	尊厳刷新リスト	クルナト・シャフワーン会合 ブロック	
		ニウマトウツラー・アビー・ ナスル	尊厳刷新リスト	無所属	キリスト民主党
		ファーリス・ブワイズ	人民決定リスト	人民決定ブロック(代表)	
レバノン山地県第2区 (マドン郡)	マロン派	エミール・エミール・ラッ フォード	マドン合意リスト	マドン・ブロック	
		ピエール・ジュマイイル	無所属	クルナト・シャフワーン会合 ブロック	
		ナスィーブ・ラッフォード	自由リスト	民主刷新運動ブロック(代 表)	
		ガッサーン・アシュカル	マドン合意リスト	シリア民族社会党ブロック	シリア民族社会党
	ギリシャ正教	ミシエル・ムツル(副議長)	マドン合意リスト	マドン・ブロック(代表)	

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
		ガッサーン・ムハイビル	レバノン・リスト	無所属	
	ギリシャ・カトリック	アントワーン・ハッダード	マトン合意リスト	マトン・ブロック	
	アルメニア正教	セブーフ・ホヴナーニアン	マトン合意リスト	マトン・ブロック	ターシュナーク党
レバノン山地県第3区(バアブダー郡)	シーア派	バースィム・サブア	山地統一リスト	民主会合ブロック	
		アリー・アンマール	合意刷新リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
	ドゥルーズ派	アイマン・シュカイル	山地統一リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	マロン派	サラーフ・フナイン	山地統一リスト	民主会合ブロック/クルナト・シャフワーン会合ブロック	
		アントワーン・ガーニム	山地統一リスト	民主会合ブロック	カタールイ改革運動
		アブドゥッラー・ファルハート	山地統一リスト	民主会合ブロック	
レバノン山地県第3区(アレイ郡)	ドゥルーズ派	アクラム・シュハイブ	山地統一リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
		タラール・アルスラーン	合意刷新リスト		レバノン民主党
	マロン派	フアード・サアド	山地統一リスト	民主会合ブロック	
		ピエール・フルウ	合意刷新リスト	無所属	
	ギリシャ正教	アントワーン・アンドラーウス	山地統一リスト	民主会合ブロック	
レバノン山地県第4区(シェーフ郡)	スンナ派	アラッディーン・ティッルー	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
		ムハンマド・カースィム・ハッジャール	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
	ドゥルーズ派	マルワーン・ハマーダ	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
		ワリード・ジュンブラート	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック(代表)	進歩社会主義党
	マロン派	ジョルジュ・ニウマ	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
		ナビル・プスターニー	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
		エリー・アウン	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
	ギリシャ・カトリック	ニウマ・トゥウマ	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
北部県第1区(アッカール郡)	スンナ派	ジャマール・イスマーイーール	連立リスト	無所属	
		ワジーフ・バアリーニー	連立リスト	無所属	
		ムハンマド・ヤフヤー	人民の意志リスト	無所属	
	アラウィー派	アブドゥッラフマーン・アブドゥッラフマーン	連立リスト	無所属	
	マロン派	ミハーイル・ダーヒル	連立リスト	無所属	
	ギリシャ正教	カリーム・ラーシー	人民の意志リスト	北部ブロック	
		イサーム・ファーリス	連立リスト	無所属	
北部県第1区(デンニヤー郡)	スンナ派	アフマド・ファトファト	無所属	無所属	ムスタカバル潮流
		ジハード・アブドゥッサマド	人民の意志リスト	北部ブロック	
北部県第1区(ビシャッリー郡)	マロン派	ジュブラーン・タウク	人民の意志リスト	無所属	
		カバラーン・フーリー	連立リスト	無所属	

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
北部県第2区(トリポリ郡)	スンナ派	ナジーブ・ミーカーティー	団結開発リスト	北部ブロック	
		ムハンマド・サファディ	団結開発リスト	トリポリ・ブロック	
		ムハンマド・カップバーラ	団結開発リスト	トリポリ・ブロック(代表)	
		ウマル・カラーミー	国民尊厳リスト	無所属	アラブ解放党
		ムハンマド・ミスバーフ・アフダブ	無所属	民主刷新運動ブロック	
	アラウィー派	アフマド・ハブース	団結開発リスト	北部ブロック	
	マロン派	ジャーシ・ウバイド	団結開発リスト	無所属	
北部県第2区(ミンヤ郡)	スンナ派	モリース・ファードイル	団結開発リスト	トリポリ・ブロック	
	サリフ・ハイイル	団結開発リスト	北部ブロック		
北部県第2区(ズガルター郡)	マロン派	スライマーン・フランジーヤ	団結開発リスト	北部ブロック(代表)	
		ナーイラ・ムアウワド	国民尊厳リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック	
		カイサル・ムアウワド	団結開発リスト	北部ブロック	
北部県第2区(バトローン郡)	マロン派	ブトルス・ハルブ	団結開発リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック(代表)	
		サーイド・アクル	団結開発リスト	北部ブロック	
北部県第2区(クラー郡)	ギリシャ正教	ファーイズ・グスン	団結開発リスト	北部ブロック	
		ファリード・マカーリー	団結開発リスト	無所属	
		サリーム・サアーダ	団結開発リスト	シリア民族社会党ブロック	
南部県・ナバティーヤ県第1区(サイダー郡)	スンナ派	バヒヤ・ハリリー	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
		ムスタファー・サアド(d)	抵抗開発リスト	無所属	ナセル人民機構
南部県・ナバティーヤ県第1区(ザフラーネー郡)	シーア派	ナビーフ・ビッリー(議長)	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック(代表)	アマル運動
		アリー・ウサイラーシ	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
	ギリシャ・カトリック	ミシェル・ムーサー	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
南部県・ナバティーヤ県第1区(スール郡)	シーア派	ムハンマド・ユースフ・バイドゥーン	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
		アリー・ユースフ・ハリール(e)	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
		アブドゥッラー・カスィール	抵抗開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		アリー・フライス	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
南部県・ナバティーヤ県第1区(ピントジュベイル郡)	シーア派	アイユーブ・フマイド	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
		ムハンマド・フナイシュ	抵抗開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		アリー・バズジー	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
南部県・ナバティーヤ県第2区(マルジャアユーン郡、ハースバイヤー郡)	スンナ派	カーシム・ハーシム	抵抗開発リスト	バース党ブロック	バース党
	シーア派	ナズィーフ・マンスール	抵抗開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	
		アリー・ハサン・ハリール	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
	ドゥルーズ派	アンワル・ハリール	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
	ギリシャ正教	アスアド・ハルダーン	抵抗開発リスト	シリア民族社会党ブロック	シリア民族社会党

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
南部県・ナバティーヤ県第2区(ナバティーヤ郡)	シーア派	アブドゥッラティーフ・ザイン	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
		ムハンマド・ラアド	抵抗開発リスト	抵抗への忠誠ブロック(代表)	ヒズブッラー
		ヤーシーン・ジャービル	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
南部県・ナバティーヤ県第2区(ジェズイン郡)	マロン派	サミール・アーザール	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
		ジョルジュ・ナジュム	抵抗開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	
	ギリシャ・カトリック	アントワーン・フーリー	抵抗開発リスト	抵抗開発ブロック	
ベカーア県第1区(パアルベック郡、ヘルメル郡)	スンナ派	マスウード・フジャイリー	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗への忠誠ブロック	
		イブラーヒーム・バヤーン	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗への忠誠ブロック	
	シーア派	フサイン・フサイニー	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗開発ブロック	
		アンマール・ムーサウィー	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		フサイン・ハサン	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		ムハンマド・ヤーギー	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		アースィム・カーンスーフ	パアルベック・ヘルメル・リスト	バアス党ブロック(代表)	バアス党
		ガーズィー・ズアイティル	パアルベック・ヘルメル・リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
	マロン派	ナーディル・スッカル	パアルベック・ヘルメル・リスト	無所属	レバノン・カタール党
	ギリシャ・カトリック	マルワーン・ファールス	パアルベック・ヘルメル・リスト	シリア民族社会党ブロック(代表)	シリア民族社会党
ベカーア県第2区(ザフレ郡)	スンナ派	ムハンマド・アリー・マイス	人民ブロック・リスト	無所属	
	シーア派	ムフスィン・ダッルール	人民ブロック・リスト	無所属	
	マロン派	ハリール・ヒラーウィー	人民ブロック・リスト	無所属	
	ギリシャ正教	ユースフ・マアルーフ	人民ブロック・リスト	無所属	
	ギリシャ・カトリック	イリヤース・スカーフ	人民ブロック・リスト	人民ブロック(代表)	
		ニコラー・ファットトゥーシュ	人民ブロック・リスト	人民ブロック	
	アルメニア正教	ジョルジュ・カッサールジ	人民ブロック・リスト	無所属	
ベカーア県第3区(西ベカーア郡、ラーシャイヤー郡)	スンナ派	アブドゥッラヒーム・ムラード	決定リスト	西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック(代表)	アラブ社会主義連合
		サーミー・ハティーブ	決定リスト	西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック	
	シーア派	マフムード・アブー・ハムダーン	決定リスト	抵抗開発ブロック	アマル運動
	ドゥルーズ派	ファイサル・ダーウード	決定リスト	西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック	レバノン・アラブ闘争運動

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
	マロン派	ロベール・ガーニム	決定リスト	西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック	
	ギリシャ正教	エリー・ファルズリー	決定リスト	無所属	

(注) (a) 2005年2月14日に暗殺。

(b) ラフィーク・ハリリー元首相暗殺後、ベイルート決定ブロックを実質的に離反。

(c) 2005年2月14日、ラフィーク・ハリリー元首相暗殺時に重傷を負い、同年4月18日にパリで死去。

(d) 2002年8月に死去。後任は息子のウサーマ・サアド。

(e) 2005年4月3日に死去。

(出所) 青山 [2006a] [2006b], ArabicNews.com [2000a] [2000b], <http://www.arabdecision.org/> (2006年10月アクセス), <http://www.lebanonelect.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.libanvote.com/> (2006年10月アクセス), <http://www.lp.gov.lb/> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(c) 第17期国民議会

投票日：ベイルート県 2005年5月28日，南部県，ナバディーヤ県 2005年6月5日，レバノン山地県，ベカーア県 2005年6月12日，北部県 2000年6月19日

任期：2005年6月28日～2009年6月27日

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
ベイルート県第1区 (アシュラーフィヤ地区，マズラ地区，サイフィー地区)	スンナ派	サアド・ハリリー(本名サアドウッディーン・ハリリー)	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック(代表)	
		アンマール・フリー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
	マロン派	ソラーンジュ・トウトウンジー(ジュマイイル)	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	無所属	
	ギリシャ正教	ジュブラーン・トゥワイニー(a)	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック	クルナト・シャフワーン会合
	ギリシャ・カトリック	ミシエル・フィルアウン	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
	福音派	バースイム・シャープ	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
ベイルート県第2区 (パーシュウラ地区，ルマイル地区，ムサイトバ地区)	スンナ派	バヒージュ・タッバーラ	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
		フリード・アイドゥー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
	シーア派	アミン・シッリー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブラー
	ギリシャ正教	アーティフ・マジダラーニー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	
	アルメニア正教	ヤギヤー・ジョルジヤーン	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタクバル・ブロック	アルメニア社会民主ハンチャク党

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
	マイノリティ	ナビル・ドゥ・フライジュ	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
バイルート県第3区 (バイルート岬、ダール・アル＝ムライサ地区、ミナー・アル＝フスン地区、マルファア地区、ズカー・アル＝ブラート地区、ムダウラ地区)	スンナ派	ムハンマド・ジャミール・カッバーニー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
		ガヌワ・ジャッルール	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
	シーア派	ガーズイー・ユースフ	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
	ドゥルーズ派	ガーズイー・アリー・ディー	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	アルメニア正教	ジャー・ン・オガーサービヤーン	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
		ハゴブ・カサルジヤーン	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	ラームガヴァーン党
	アルメニア・カトリック	セルジュ・トルサルキース・イヤーン	殉教者ラフィーク・ハリリーへの忠誠リスト	ムスタカバル・ブロック	
レバノン山地県第1区 (ジュベイル郡)	シーア派	アッバース・ハーシム	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
	マロン派	ワリード・フーリー	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		シャール・ムーザーヤーン	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
レバノン山地県第1区 (カスターワン郡)	マロン派	ミシェル・アウン	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ジョセフ・ハリール	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ニウマトウッラー・アビー・ナスル	変化改革リスト	変化改革ブロック	キリスト民主党、自由国民潮流
		フェリド・ハーズィン	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ジルバルト・ズワイン	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
レバノン山地県第2区 (マトン郡)	マロン派	イブラーヒーム・カナアーン	変化改革リスト	変化改革ブロック(代表)	自由国民潮流
		サリーム・サルハブ	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ナビル・ニコラー	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ピエール・ジュマイイル ^(b)	野党統一リスト	カタール改革運動ブロック(代表)	カタール改革運動(c)
	ギリシャ正教	ガッサーン・ムハイビル	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
		ミシェル・ムッル	変化改革リスト	変化改革ブロック	
	ギリシャ・カトリック	エドガール・マアルーフ	変化改革リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
	アルメニア正教	アゴブ・パクラードゥーニヤーン	変化改革リスト	変化改革ブロック	ターシュナーク党
レバノン山地県第3区 (バアブダー郡)	シーア派	アリー・アンマール	山地統一リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		バースィム・サブア	山地統一リスト	ムスタカバル・ブロック	
	ドゥルーズ派	アイマン・シュカイル	山地統一リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	マロン派	エドモーン・ナイーム ^(d)	山地統一リスト	レバノン軍団ブロック	レバノン軍団
		アントワーン・ガーニム	山地統一リスト	カタール改革運動ブロック	カタール改革運動(c)

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
レバノン山地県第3区(アレイ郡)	ドゥルーズ派	アブドゥッラー・ファルハート	山地統一リスト	民主会合ブロック	
		アクラム・シュハイブ	山地統一リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
		ファイサル・サーイグ	山地統一リスト	民主会合ブロック	
	マロン派	ヘンリー・フルウ	山地統一リスト	民主会合ブロック	
		フアード・サアド	山地統一リスト	民主会合ブロック	
レバノン山地県第4区(シュフ郡)	ギリシャ正教	アントワーン・アンドラーウス	山地統一リスト	ムスタクバル・ブロック	
	スンナ派	ムハンマド・カーシム・ハッジヤール	国民闘争戦線リスト	ムスタクバル・ブロック	
		アラッディーン・ティッルー	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	ドゥルーズ派	ワリード・ジュンブラート	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック(代表)	進歩社会主義党
		マルワーン・ハマーダ	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	マロン派	ナビール・ブスターニー	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
		エリー・アウン	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
		ジョルジュ・アドワーン	国民闘争戦線リスト	レバノン軍団ブロック(代表)	レバノン軍団
	ギリシャ・カトリック	ニウマ・トゥウマ	国民闘争戦線リスト	民主会合ブロック	
北部県第1区(アッカール郡)	スンナ派	マフムード・ムラード	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	ムスタクバル潮流
		ムスタファー・ハーシム	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	ムスタクバル潮流
		アッザーム・ダンドシー	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	ムスタクバル潮流
	アラウィー派	ムスタファー・フサイン	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	ムスタクバル潮流
	マロン派	ハーニー・フバイシュ	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	無所属
	ギリシャ正教	リヤード・ラッハール	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	無所属
		アブドゥッラー・ハンナー	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	無所属
北部県第1区(ディンニヤ郡)	スンナ派	カーシム・アブドゥルアズィーズ	国民統一3月14日リスト	トリボリ無所属ブロック	無所属
		アフマド・ファトファト	国民統一3月14日リスト	ムスタクバル・ブロック	ムスタクバル潮流
北部県第1区(ビシャッリー郡)	マロン派	ストリーダー・タウク(ジャアジャア)	国民統一3月14日リスト	レバノン軍団ブロック	レバノン軍団
		エリー・カイルーズ	国民統一3月14日リスト	レバノン軍団ブロック	レバノン軍団
北部県第2区(トリボリ郡)	スンナ派	ムハンマド・サファディー	和解改革リスト	トリボリ無所属ブロック	
		ムハンマド・ミスバーフ・アフダブ	和解改革リスト	民主刷新運動ブロック	民主刷新運動

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党	
		ムハンマド・カッバーラ	和解改革リスト	トリポリ無所属ブロック(代表)		
		サミール・ジスル	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	ムスタカバル潮流	
		ムスタファー・アッルーシユ	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	ムスタカバル潮流	
		アラウィー派	バドル・ワンヌース	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	無所属
		マロン派	イリヤース・アターツラー	和解改革リスト	民主左派運動ブロック	民主左派運動
		ギリシャ正教	モリス・ファーディル	和解改革リスト	トリポリ無所属ブロック	
北部県第2区(ミンヤ郡)	スナ派	ハーシム・イルムッディーン	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	無所属	
北部県第2区(ズガルト郡)	マロン派	ナーイラ・ムアウワド	和解改革リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック	クルナト・シャフワーン会合	
		ジャワード・ブールス	和解改革リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック	クルナト・シャフワーン会合	
		サミール・フランジーヤ	和解改革リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック	クルナト・シャフワーン会合	
北部県第2区(バトローン郡)	マロン派	ブトルス・ハルブ	和解改革リスト	クルナト・シャフワーン会合ブロック(代表)	クルナト・シャフワーン会合	
		アントワーン・ザフラ	和解改革リスト	レバノン軍団ブロック	レバノン軍団	
北部県第2区(クエラ郡)	ギリシャ正教	ファリード・マカーリー(副議長)	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	ムスタカバル潮流	
		ファリード・ハビーブ	和解改革リスト	レバノン軍団ブロック	レバノン軍団	
		ニコラー・グスン	和解改革リスト	ムスタカバル・ブロック	無所属	
南部県・ナバティーヤ県第1区(サイダー郡)	スナ派	バヒーヤ・ハリリー	抵抗解放開発リスト	ムスタカバル・ブロック		
		ウサーマ・サアド	抵抗解放開発リスト	無所属	ナセル人民機構	
南部県・ナバティーヤ県第1区(ザフラーニ郡)	シーア派	ナビーフ・ビッリー(議長)	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック(代表)	アマル運動	
		アリー・ウサイラーン	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック		
	ギリシヤ・カトリック	ミシェル・ムーサー	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック		
南部県・ナバティーヤ県第1区(スール郡)	シーア派	ムハンマド・フナイシュ	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー	
		ハサン・フッブッラー	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー	
		アブドゥルマジード・サーリフ	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック		
		アリー・フライス	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	アマル運動	
南部県・ナバティーヤ県第1区(ピント・ジュベイル郡)	シーア派	ハサン・ファドルッラー	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー	
		アリー・バズィー	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	アマル運動	
		アイユーブ・フマイド	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	アマル運動	
南部県・ナバティーヤ県第2区(マルジャアユーン郡、ハスバイヤー郡)	スナ派	カーシム・ハーシム	抵抗解放開発リスト	バース党ブロック	バース党	
	シーア派	ムハンマド・マフムード・ハイダル	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー	
		アリー・ハサン・ハリール	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	アマル運動	
	ドゥルーズ派	アンワル・ハリール	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック		
	ギリシヤ正教	アスアド・ハルダーン	抵抗解放開発リスト	シリア民族社会党ブロック	シリア民族社会党	

選挙区	宗派	氏名	所属リスト	所属ブロック	所属政党
南部県・ナバティーヤ県第2区(ナバティーヤ郡)	シーア派	ムハンマド・ラアド	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック(代表)	ヒズブッラー
		ヤースイーン・ジャービル	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	
		アブドゥッラティーフ・ザイン	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	
南部県・ナバティーヤ県第2区(ジェズイーン郡)	マロン派	サミール・アーザール	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	
		ピエール・スイルハール	抵抗解放開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	
	ギリシヤ・カトリック	アントワーン・フーリー	抵抗解放開発リスト	開発解放ブロック	
ベカーア県第1区(バアルベック郡、ヘルメル郡)	スンナ派	イスマーイール・スッカリーヤ	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		カーミル・リファーイー	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
	シーア派	ムハンマド・サルマーン・ミクダード	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		フサイン・ハサン	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		ジャマール・タクシュ	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	ヒズブッラー
		ガーズィー・ズアイティル	ベカーア開発リスト	開発解放ブロック	アマル運動
		ナウワール・サーヒリー	ベカーア開発リスト	抵抗への忠誠ブロック	
		フサイン・フサイニー	ベカーア開発リスト	無所属	
	マロン派	ナーディル・スッカル	ベカーア開発リスト	レバノン・カタール党ブロック	レバノン・カタール党(c)
	ギリシヤ・カトリック	マルワーン・ファールス	ベカーア開発リスト	シリア民族社会党ブロック(代表)	シリア民族社会党
ベカーア県第2区(ザフレ郡)	スンナ派	アースィム・アッラージー	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	
	シーア派	ハサン・ヤアクーブ	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	
	マロン派	サリーム・アウン	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	自由国民潮流
	ギリシヤ正教	カミール・マアールーフ	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	
	ギリシヤ・カトリック	イリヤース・スカーフ	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	
		ニコラー・ファットウーシュ	ベカーア尊厳和解リスト	ムスタクバル・ブロック(支持)	
	アルメニア正教	ジョルジュ・カッサールジー	人民ブロック・リスト	変化改革ブロック	ターシュナーク党(支持)
ベカーア県第3区(西ベカーア郡、ラーシャイヤー郡)	スンナ派	アフマド・ファットウーフ	国民決定リスト	ムスタクバル・ブロック(支持)	
		ジャマール・ジャッラーフ	国民決定リスト	ムスタクバル・ブロック	
	シーア派	ナーシル・ナスルッラー	国民決定リスト	開発解放ブロック	
	ドゥルーズ派	ワイル・アブー・ファール	国民決定リスト	民主会合ブロック	進歩社会主義党
	マロン派	ロベール・ガーニム	国民決定リスト	ムスタクバル・ブロック(支持)	
	ギリシヤ正教	アントワーン・サアド	国民決定リスト	民主会合ブロック	

- (注) (a) 2005年12月14日に暗殺。後任には父のガッサーン・トゥワイニーが就任。
(b) 2006年11月21日に暗殺。
(c) カタールイブ改革運動とレバノン・カタールイブ党は2005年11月に統一し、レバノン・カタールイブ党となる。
(d) 2006年1月23日に死去。後任にはピエール・ダッカーシュ(自由国民潮流)が就任。

(出所) 青山 [2006b]などをもとに筆者作成。

3. 内閣

(1) 第3次ラフィーク・ハリリー内閣（第81代内閣，1996年11月7日～1998年12月4日）^(a)

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相，財務大臣，通信郵便大臣	ラフィーク・ハリリー ^(b)	スンナ派	
副首相，内務地方行政大臣	ミシェル・ムッル ^(b)	ギリシャ正教	
運輸大臣	ウマル・ミスカールウィー ^(b)	スンナ派	親ハリリー
外務大臣	ファリス・ブワイズ ^(b)	マロン派	
環境大臣	アクラム・シュハイブ ^(b)	ドクルーズ派	進歩社会主義党
観光大臣	ニコラー・ファットウーシュ ^(b)	ギリシャ・カトリック	
経済通商大臣	ヤースィーン・ジャービル ^(b)	シーア派	親アマル運動
公共事業大臣	アリー・ハラージュリー	シーア派	
国防大臣	ムフスィン・ダッルール ^(b)	シーア派	
国民教育青年スポーツ大臣	ジャーン・ウバイド ^(b)	マロン派	無所属
社会問題大臣	アゴブ・ディマルジャーン	アルメニア正教	親ハリリー
住宅大臣	マフムード・アブー・ハムダーン ^(b)	シーア派	アマル運動
情報大臣	バースィム・サブア ^(b)	シーア派	親ハリリー
工業石油大臣	シャーヒー・バルスーミヤーン	アルメニア正教	ターシュナーク党
電力水資源大臣	イリヤース・フバイカ ^(b)	マロン派	契約党
難民大臣	ワリード・ジュンブラート ^(b)	ドクルーズ派	進歩社会主義党
農業大臣	シャウキー・ファーフリー ^(b)	ギリシャ正教	
文化問題高等教育大臣	ファウズィー・フバイシュ ^(b)	マロン派	
保健大臣	スライマーン・フランジーヤ ^(b)	マロン派	
法務大臣	バヒージュ・タッバーラ	スンナ派	親ハリリー
労働大臣	アスアド・ハルダーン ^(b)	ギリシャ正教	シリア民族社会党
行政改革担当国家大臣	ビシャーラ・ムルヒジュ ^(b)	ギリシャ正教	親ハリリー
工業担当国家大臣	ナディーム・サーリム ^(b)	ギリシャ・カトリック	親アマル運動
国民議会担当国家大臣	イリヤース・ハンナー	ギリシャ・カトリック	
在外居住者担当国家大臣	タラール・アルスラーン ^(b)	ドクルーズ派	レバノン民主党
財務担当国家大臣	フアード・スィニユーラ	ギリシャ正教	親ハリリー

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
職業技術教育担当国家大臣	ファールーク・バルビール	スンナ派	
国家大臣	ミシェル・イッダ	マロン派	レバノン・マロン派連盟
国家大臣	ガーズィー・サイフッディーン	スンナ派	バアス党

(注) (a) ラフィーク・ハリリーは、1992年10月31日から1995年5月25日まで第1次内閣(第79代内閣)を、1995年5月25日から1996年11月7日まで第2次内閣(第80代内閣)を率いた。

(b) 国民議会議員。

(出所) <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrout.com/pages/index1445.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrout.com/pages/index1446.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrout.com/pages/index1584.htm> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(2) 第4次サリーム・フッス内閣 (第82代内閣, 1998年12月4日～2000年10月26日) (a)

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相, 外務在外居住者大臣	サリーム・フッス(b)	スンナ派	
副首相, 内務地方行政大臣	ミシェル・ムッル(b)	ギリシャ正教	
環境大臣, 観光大臣	エルティユール・ナーザーリヤーン	アルメニア正教	
経済通商大臣, 工業大臣	ナーシル・サイーディー	シーア派	
公共事業運輸大臣	ナジーブ・ミーカーティー	スンナ派	
国防大臣	ガーズィー・ズアイティル(b)	シーア派	アマル運動
国民教育青年スポーツ大臣, 文化問題高等教育大臣, 職業技術教育担当国家大臣	ムハンマド・ユースフ・バイドゥーン(b)	シーア派	親アマル運動
財務大臣	ジョルジュ・カラム	マロン派	
情報大臣, 難民大臣	アンワル・ハリール	ドゥルーズ派	親アマル運動
石油大臣, 電力水資源大臣	スライマーン・タラブルスィー	ギリシャ・カトリック	
農業大臣, 住宅大臣	スライマーン・フランジーヤ(b)	マロン派	
保健大臣	カラム・カラム	ギリシャ正教	
法務大臣	ジョゼフ・シャール	マロン派	
通信郵便大臣	イサーム・ニウマーン	ドゥルーズ派	
労働大臣, 社会問題大臣	ミシェル・ムーサー(b)	ギリシャ・カトリック	親アマル運動
行政改革担当国家大臣	ハサン・シャラク	スンナ派	

(注) (a) サリーム・フスは、1976年12月8日から1979年12月9日まで第1次内閣（第70代内閣）を、1979年7月16日から1980年10月25日まで第2次内閣（第71代内閣）を、1989年11月25日から1990年12月24日まで第3次内閣（第76代内閣）を率いた。

(b) 国民議会議員。

(出所) <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrouth.com/pages/index1442.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrouth.com/pages/index2313.htm> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(3) 第4次ラフィーク・ハリリー内閣（第83代内閣、2000年10月26日～2003年4月17日）

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相	ラフィーク・ハリリー(a)	スンナ派	バイルート決定ブロック
副首相	イサーム・ファールス(a)	ギリシャ正教	無所属
外務在外居住者大臣	マフムード・ハンムード	シーア派	親抵抗開発ブロック
環境大臣	ミシエル・ムーサー(a)	ギリシャ・カトリック	抵抗開発ブロック
観光大臣	カラム・カラム	ギリシャ正教	
教育・高等教育大臣	アブドゥッラヒーム・ムラード(a)	スンナ派	西ベカーア・ラーシヤイヤー・ブロック、アラブ社会主義連合
経済通商大臣	バーシル・フライハーン(a)	プロテスタント	バイルート決定ブロック
公共事業運輸大臣	ナジブ・ミーカーティー(a)	スンナ派	北部ブロック
工業大臣	ジョルジュ・フラーム(a)	マロン派	無所属
国防大臣	ハリール・ヒラーウィー(a)	マロン派	無所属
財務大臣	フアード・スィニユーラ	スンナ派	親バイルート決定ブロック
社会問題大臣	アスアド・ディヤーブ	シーア派	
情報大臣	ガーズィー・アリーディー(a)	ドゥクルズ派	民主会合ブロック、進歩社会主義党
青年スポーツ大臣	セブーフ・ホヴナーニアーン(a)	アルメニア正教	マトン・ブロック、ターシュナーク党
通信郵便大臣	ジャーン・カルダーヒー	マロン派	
電力水資源大臣	ムハンマド・ユースフ・バイドゥーン(a)	シーア派	抵抗開発ブロック、アマル運動
内務地方行政大臣	イリヤース・ムッル	ギリシャ正教	親マトン・ブロック
難民大臣	マルワーン・ハマード(a)	ドゥクルズ派	民主会合ブロック、進歩社会主義党
農業大臣	アリー・アブドゥッラー	シーア派	親抵抗開発ブロック、アマル運動
文化大臣	ガッサーン・サラーマ	ギリシャ・カトリック	

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
保健大臣	スライマーン・フランジーヤ(a)	マロン派	北部ブロック
法務大臣	サミール・ジスル	スンナ派	親バイルート決定ブロック
労働大臣	アリー・カーンスー	シーア派	シリア民族社会党
行政改革担当国家大臣	フアード・サアド(a)	マロン派	民主会合ブロック
国家大臣	タラール・アルスラーン(a)	ドクルーズ派	レバノン民主党
国家大臣	バビージュ・タッバーラ	スンナ派	親バイルート決定ブロック
国家大臣	ナズィーフ・バイドゥーン	シーア派	バアス党
国家大臣	ミシェル・フィルアウン(a)	ギリシャ・カトリック	バイルート決定ブロック
国家大臣	ピエール・フルウ	マロン派	無党派
国家大臣	ビシヤーラ・ムルヒジュ(a)	ギリシャ正教	バイルート決定ブロック

(注) (a) 国民議会議員。

(出所) <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrouth.com/pages/index2354.htm> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(4) 第5次ラフィーク・ハリリー内閣 (第84代内閣, 2003年4月17日～2004年10月26日)

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相	ラフィーク・ハリリー(a)	スンナ派	バイルート決定ブロック
副首相	イサーム・ファールリス(a)	ギリシャ正教	無所属
外務在外居住者大臣	ジャーン・ウバイド(a)	マロン派	無所属
環境大臣	ファールリス・ブワイズ(a)(b)	マロン派	人民決定ブロック
観光大臣	アリー・アブドゥッラー	シーア派	アマル運動
教育・高等教育大臣	サミール・ジスル	スンナ派	親バイルート決定ブロック
経済通商大臣	マルワーン・ハマード(a)(b)	ドクルーズ派	民主会合ブロック, 進歩社会主義党
公共事業運輸大臣	ナジブ・ミーカーティー(a)	スンナ派	北部ブロック
工業大臣	イリヤース・スカーフ(a)	ギリシャ・カトリック	人民ブロック
国防大臣	マフムード・ハンムード	シーア派	親抵抗開発ブロック
社会問題大臣	アスアド・ディヤーブ	シーア派	
情報大臣	ミシェル・サマーハ	ギリシャ・カトリック	
青年スポーツ大臣	セブーフ・ホヴナーニアン(a)	アルメニア正教	マトン・ブロック, ターシュナーク党
通信郵便大臣	ジャーン・カルダーヒー	マロン派	

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
電力水資源大臣	アイユーブ・フマイド ^(a)	シーア派	抵抗開発ブロック, アマル運動
内務地方行政大臣	イリヤース・ムッル	ギリシャ正教	親マトン・ブロック
難民大臣	アブドゥッラー・ファルハート ^{(a)(b)}	マロン派	民主会合ブロック
農業大臣	アリー・ハサン・ハリール ^(a)	シーア派	抵抗開発ブロック, アマル運動
文化大臣	ガーズィー・アリーディー ^{(a)(b)}	ドゥルーズ派	民主会合ブロック, 進歩社会主義党
保健大臣	スライマーン・フランジーヤ ^(a)	マロン派	北部ブロック
法務大臣	バヒージュ・タッバーラ	スンナ派	親バイルート決定ブ ロック
労働大臣	アスアド・ハルダーン ^(a)	ギリシャ正教	シリア民族社会党 ブロック, シリア民族 社会党
行政改革担当国家大 臣	カリーム・バクラードゥーニー	アルメニア正教	レバノン・カタールイ ブ党
国家大臣	タラール・アルスラーン ^(a)	ドゥルーズ派	レバノン民主党
国家大臣	カラム・カラム	ギリシャ正教	
国家大臣	アースィム・カーンスーフ ^(a)	シーア派	バアス党ブロック, バアス党
国家大臣	フアード・スイニユーラ	スンナ派	親バイルート決定ブ ロック
国家大臣	ハリール・ヒラーウィー ^(a)	マロン派	無所属
国家大臣	ミシエル・ムーサー ^(a)	ギリシャ・カトリック	無所属
国家大臣	アブドゥッラヒーム・ムラード ^(a)	スンナ派	西ベカーア・ラーシ ヤイヤー・ブロック, アラブ社会主義連 合

(注) ^(a) 国民議会議員。

^(b) 2004年9月8日, エミール・ラフフード大統領の任期延長に反対し辞任。

(出所) <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrouth.com/pages/index2331.htm> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(5) 第2次ウマル・カラーミー内閣 (第85代内閣, 2004年10月26日
～2005年4月19日) ^(a)

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相	ウマル・カラーミー ^(b)	スンナ派	無所属
副首相	イサーム・ファールリス ^(b)	ギリシャ正教	無所属
外務在外居住者大臣	マフムード・ハンムード	シーア派	親抵抗開発ブロック
環境大臣	ウィアーム・ワッハーブ	ドゥルーズ派	

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
観光大臣	ファリード・ハーズィン ^{(b)(c)}	マロン派	人民決定ブロック
教育・高等教育大臣	サーミー・ミンカーラ	スンナ派	
経済通商大臣	アドナーン・カッサール	スンナ派	
公共事業運輸大臣	ヤースィーン・ジャービル ^(b)	シーア派	抵抗開発ブロック
工業大臣	ライラー・スルフ	スンナ派	
国防大臣	アブドゥッラヒーム・ムラード ^(b)	スンナ派	西ベカーア・ラーシヤイヤー・ブロック, アラブ社会主義連合
財務大臣	イリヤース・サーバー	ギリシヤ正教	
社会問題大臣	ガーズィー・ズアイティル ^(b)	シーア派	開発解放ブロック, アマル運動
情報大臣	エリー・ファルズリー ^(b)	ギリシヤ正教	無所属
青年スポーツ大臣	セブーフ・ホヴナーニアー ^(b)	アルメニア正教	マトン・ブロック, ターシュナーク党
通信郵便大臣	ジャーン・カルダーヒー	マロン派	
電力水資源大臣	モーリス・サフナーウィー	ギリシヤ・カトリック	
内務地方行政大臣	スライマーン・フランジーヤ ^(b)	マロン派	北部ブロック
難民大臣	タラール・アルスラーン ^(b)	ドゥルーズ派	レバノン民主党
農業大臣	イリヤース・スカーフ ^(b)	ギリシヤ・カトリック	人民ブロック
文化大臣	ナージー・ブスターニー	マロン派	
保健大臣	ムハンマド・ハリーフア	シーア派	アマル運動
法務大臣	アドナーン・アッドウーム	スンナ派	
労働大臣	アースィム・カーンスーフ ^(b)	シーア派	バアス党ブロック
行政改革担当国家大臣	イブラーヒーム・ダーヒル	マロン派	
国家大臣	マフムード・アブドゥルハーリク	ドゥルーズ派	
国家大臣	カラム・カラム	ギリシヤ正教	
国家大臣	ユースフ・サラーマ	マロン派	
国家大臣	アラーン・ターブーリヤーン	アルメニア正教	
国家大臣	ワファー・ハムザ	シーア派	
国家大臣	アルビール・マンスール	ギリシヤ・カトリック	

(注) (a) ウマル・カラーミーは、1990年12月24日から1992年5月16日まで第1次内閣(第77代内閣)を率いた。

(b) 国民議会議員。

(c) 2005年2月19日に辞任。後任はワディール・ハーズィン(非国民議会議員、マロン派)。

(出所) <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrout.com/pages/index1443.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrout.com/pages/index1923.htm> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

(6) ナジーブ・ミーカーティー内閣（第86代内閣，2005年4月19日～7月19日）

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相	ナジーブ・ミーカーティー ^(a)	スンナ派	北部ブロック
副首相，国防大臣	イリヤース・ムッル	ギリシャ正教	親マトン・ブロック
外務在外居住者大臣	マフムード・ハンムード	シーア派	親抵抗開発ブロック
環境大臣，行政改革担当国家大臣	ターリク・ミトリ	ギリシャ正教	親ル・ブリストル会合派，親ギリシャ正教会
教育・高等教育大臣，文化大臣	――		
公共事業運輸大臣，難民大臣	アーディル・ハミーヤ	ドクルズ派	親民主会合ブロック
工業大臣，電力水資源大臣	バッサーム・ヤンミン	マロン派	親北部ブロック
財政大臣，経済通商大臣	デミヤーノス・カッタール	マロン派	親マロン派教会
情報大臣，観光大臣	シャルル・リズク	マロン派	親ラッフード，親マロン派教会
青年スポーツ大臣，通信郵便大臣	アラーン・ターブーリヤーン	アルメニア正教	
内務地方行政大臣	ハサン・サブア	スンナ派	親バイルート決定ブロック
保健大臣，社会問題大臣	ムハンマド・ハリファ	シーア派	親抵抗開発ブロック
法務大臣	ハーリド・カッバーニー	スンナ派	親バイルート決定ブロック
労働大臣，農業大臣	トゥラード・ハマダ	シーア派	ヒズブッラー

（注）^(a) 国民議会議員。

（出所） <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm>（2006年10月アクセス），<http://www.yabeyrouth.com/pages/index1447.htm>（2006年10月アクセス）などをもとに筆者作成。

(7) ファード・スィニューラ内閣（第87代内閣，2005年7月19日発足）

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
首相	ファード・スィニューラ	スンナ派	親ムスタクバル・ブロック
副首相，国防大臣	イリヤース・ムッル	ギリシャ正教	親マトン・ブロック
外務在外居住者大臣	ファウズィー・サッラーフ ^(b)	シーア派	親ヒズブッラー・アマール運動
環境大臣	ヤアクブ・サッラーフ ^(c)	ギリシャ正教	親ラッフード
観光大臣	ジョゼフ・サルキース	マロン派	レバノン軍団

閣僚ポスト	氏名	宗派	所属組織・会派
教育・高等教育大臣	ハーリド・カッバーニー	スンナ派	親ムスタクバル・ブロック
経済通商大臣	サーミー・ハッダード	プロテスタント	親ムスタクバル・ブロック
公共事業運輸大臣	ムハンマド・サファディー(a)	スンナ派	トリポリ無所属ブロック
工業大臣	ピエール・ジュマイイル(a)(d)	マロン派	カタールイブ改革運動ブロック, カタールイブ改革運動
財務大臣	ジハード・アズウル	マロン派	親ムスタクバル・ブロック
社会問題大臣	ナーイラ・ムアウワド(a)	マロン派	クルナト・シャフワーン会合ブロック, クルナト・シャフワーン会合
情報大臣	ガーズィー・アリーディー(a)	ドクルーズ派	民主会合ブロック, 進歩社会主義党
青年スポーツ大臣	アフマド・ファトファト(a)(e)	スンナ派	ムスタクバル・ブロック, ムスタクバル潮流
通信郵便大臣	マルワーン・ハマード(a)	ドクルーズ派	民主会合ブロック, 進歩社会主義党
電力水資源大臣	ムハンマド・フナイシュ(a)(b)	シーア派	抵抗への忠誠ブロック, ヒズブッラー
内務地方行政大臣	ハサン・サブア(f)	スンナ派	親ムスタクバル・ブロック
難民大臣	ニウマ・トゥウマ(a)	ギリシャ・カトリック	民主会合ブロック
農業大臣	タラール・サーヒリー(b)	シーア派	親抵抗開発ブロック, 親アマル運動
文化大臣	タラール・ミトリー	ギリシャ正教	無党派
保健大臣	ムハンマド・ハリーフア(b)	シーア派	親抵抗開発ブロック, アマル運動
法務大臣	シャルル・リズク	マロン派	親ラッファード, 親マロン派教会
労働大臣	トゥラード・ハマード(b)	シーア派	親抵抗への忠誠ブロック, ヒズブッラー
行政改革担当国家大臣	ジャーン・オガーサービヤーン	アルメニア正教	ムスタクバル潮流
国民議会担当国家大臣	ミシェル・フィリアウン(a)	ギリシャ・カトリック	ムスタクバル・ブロック

(注) (a) 国民議会議員。

(b) 2006年11月11日, ナビーフ・ビッリー国民議会議長主催の「協議」(al-tashāwur)の決裂を受けて, 辞表を提出。

(c) 2006年11月11日のシーア派閣僚5人の辞任に呼応するかたちで, 11月13日に辞表を提出。

- (d) 2006年11月21日に暗殺。
- (e) ハサン・サブア内務地方行政大臣の辞表提出を受け、2006年2月5日に内務地方行政大臣代行に就任。
- (f) 2006年2月5日にベイルートで発生した預言者風刺画抗議デモの暴動化の責任をとって、同日に辞表を提出。11月21日のピエール・ジュマイル工業大臣の暗殺後、治安態勢建て直しのために11月23日に復職。
- (出所) 青山 [2006a: 290], NNA [2006a] [2006b], <http://www.pcm.gov.lb/Cultures/ar-LB/default.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.yabeyrouth.com/pages/index1484.htm> (2006年10月アクセス) をもとに筆者作成。

4. 主な政党・政治組織, 政治同盟

(1) 政党・政治組織^(a)

政党・政治組織名	概説(結成年月, 党首など)
アッカル人民連合 (al-Tajammu' al-Sha'bī al-'Akkārī)	結成年不明。ワジーフ・バアリーニー党首。
アマル運動(Harakā Amal)	1975年に被収奪者運動(Harakā al-Mustaḍ'afīn, 1974年に結成)の軍事部門, レバノン戦闘大隊(Afwāj al-Muqāwama al-Lubnānīya, 略称 AMAL)として結成。1992年に公認政党となる。ナビーフ・ビッリー書記長。
アラブ解放党(Hizb al-Taḥarrur al-'Arabī)	1940年代にアブドゥルハミード・カラーミー元首相(1945年1月~8月)が結成した国民議会内会派を母胎とし, ラシード・カラーミー元首相(1955年9月~1956年3月, 1958年9月~1960年5月, 1961年10月~1964年2月, 1965年7月~1966年4月, 1966年12月~1968年2月, 1969年1月~1970年10月, 1975年7月~1976年12月, 1984年4月~1987年6月)が党として発足させる。ウマル・カラーミー元首相が現党首を務める。
アラブ社会主義バース党	1947年に正式に結成(レバノンの党組織は1956年に正式に発足)。ハーフィズ・アサド民族指導部書記長(1971年8月に就任, 2000年6月死去)。アースィム・カーンスーフ・レバノン地域指導部書記長。
アラブ社会主義レバノン前衛党(Hizb Ṭalī'a Lubnān al-'Arabī al-Ishtirākī)	1964年にバース党を離反した親イラク派を母体とする。 2006年6月に結成を宣言。アブドゥルマジード・ラーフィイー党首。
アラブ社会主義連合(al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī)	1975年に正式に発足。アブドゥッラヒーム・ムラード書記長。
アルメニア社会民主ハンチャク党(al-Hizb al-Armanī al-Ijtīmā'ī al-Dīmuqrāṭī Hanṣhāk)	1887年にジュネーブでアルメニア人学生が結成。ヤギヤー・ジョルジヤーン執行委員会議長。
アンサール・スンナ(Anṣār al-Sunna)	2006年6月, 衛星テレビ局 MBC を親米と断じ, 同局ベイルート事務所に爆破予告を行った組織。ただし組織として実在するか否かは確認できない。
イスラーム・タウヒード運動(Harakā al-Tawḥīd al-Islāmī)	1982年にトリポリで結成。ハーシム・ミンカーラ指導会議議長。2006年1月, 北部県で武器密輸を試み, メンバー4人

政党・政治組織名	概説(結成年月、党首など)
	がレバノン当局に逮捕される。
イスラーム慈善計画協会 (Jam'īya al-Mashārī' al-Khayriya al-Islāmiya, 通称アフバッシュ [al-Aḥbāsh])	1975年に結成。フサームッディーン・カラーキール会長(1995 年に就任)。
改革進歩連合 (Tajammu' al-Iṣlāh wa al-Taḡaddum)	結成年不明。ハーリド・ダーウーク党首。
カタール改革運動 (al-Ḥaraka al-Iṣlāhiya al-Katā'ib)	アミン・ジュマイール元大統領(1982年9月～1988年9月)を 中心とするレバノン・カタール党の一派。2005年11月、レ バノン・カタール党と再統一を果たし、レバノン・カタール 党となった。
共産主義革命連合 (al-Tajammu' al-Shuyū'ī al-Thawrī)	2002年に再結成。
キリスト民主党 (al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Masīḥī)	結成年不明。ニウマトウッラー・アビー・ナスル党首。
クルナト・シャフワーン会合 (Liqā' Qurna Shahwān)	2001年4月に結成。プトルス・ハルブ議員、サミール・フラン ジーヤ前議員が指導。
国民自由党 (Ḥizb al-Waṭaniyīn al-Ahrār, 英語名 National Liberal Party)	1958年に結成。ドリー・シャムウーン党首。
国民行動クラブ (Nadwa al-'Amal al-Waṭanī)	結成年不明。ハーニー・ファーフリー政治局長。
国民対話党 (Ḥizb al-Ḥiwār al-Waṭanī)	2004年8月に結成。ファード・マフズミー党首。
国民統一フォーラム (Minbar al-Waḥda al-Waṭaniya, 別称第三勢 力 [al-Qūwa al-Thālitha])	2005年3月に結成準備本格化。サリーム・フッス議長。
国民ブロック党 (Ḥizb al-Kutla al-Waṭaniya)	1943年に結成。カールロス・イッダ党首。
自由国民潮流 (al-Tayyār al-Waṭanī al-Ḥurr)	1990年代に結成。2005年9月に公認政党となる。ミシェ ル・アウン党首。
シリア民族社会党 (al-Ḥizb al-Sūrī al-Qawmī al-Ijtīmā'ī)	1932年11月に結成。アリー・カーンスー書記長。アスアド・ ハルダーン中央政治局長。ガッサーン・マタル元議員。
進歩社会主義党 (al-Ḥizb al-Taḡaddumī al-Ishtirākī)	1949年に結成。ワリード・ジュンブラート党首(1977年に就 任)。
人民運動 (Ḥaraka al-Sha'b)	結成年不明。ナジャーフ・ワーキーム党首。
杉の木衛兵党 (Ḥizb Ḥurrās al-Arz)	1975年に結成。エティヤーン・サクル党首(在イスラエル)。
誓約党 (Ḥizb al-Wa'd)	1986年に民兵として結成。ジーナー・フバイカ(イリヤース・フバ イカ元電力水資源大臣の妻)党首(2002年に就任)。
タウヒード行動委員会 (Hay'a al-'Amal al-Tawḥīdī)	結成年不明。アーリフ・シャアバーン議長。
ターシュナーク党 (Ḥizb Tashnāk)	1890年にトビリシ(グルジア)で結成。ホフィーク・ムフターリヤ ーン書記長。
団結党 (Ḥizb al-Taḡāmun)	結成年不明。エミール・ラフマ党首。
独立ナセル主義者運動 (Ḥaraka al-Nāṣiriyyīn al-Mustaḡillīn, 通称ムラービトウーン	1958年に結成。イブラーヒーム・クライラート党首。ユース フ・ガザーウィー政治局長。

政党・政治組織名	概説(結成年月、党首など)
[al-Murābiṭūn])	
ナセル人民機構(al-Tanzīm al-Sha'bi al-Nāṣirī)	結成年不明。ウサーマ・サアド党首(2002年に就任)。
ナセル民族主義機構 (al-Tanzīm al-Qawmī al-Nāṣirī)	結成年不明。サミール・シャルカス党首。
南部国民会合(al-Liqā' al-Waṭanī al-Janūbī)	結成年不明。アッバース・シャラフッディーン代表。
能力レバノン潮流(Tayyār Lubnān al-Kafā'āt)	結成年不明。アフマド・アスアド議長。
ヒズブッラー(Ḥizb Allāh)	1982年に秘密結社として結成。1985年に組織として確立。1992年に公認政党になる。ハサン・ナスルッラー書記長(1992年に就任)。
ビラード・アッ=シャームのムジャーヒドゥーン(al-Mujāhidūn fī Bilād al-Shām)	2005年12月、アーミル山ウラマー委員会(Hay'a 'Ulamā' Jabal 'Āmil)委員長のアフイーフ・ナーブルスィー師を脅迫。
ビラード・アッ=シャームの統一と自由のための闘争者 (al-Munāḍilūn min Ajl Waḥda wa Ḥurriya Bilād al-Shām)	2005年12月半ばのジュブラーン・トゥワイニー議員暗殺の実行声明を発表。ただし組織として実在するか否かは確認できない。
ビラード・アッ=シャーム救済聖戦協会(Jamā' al-Naṣra wa al-Jihād fī Bilād al-Shām)	ラフィーク・ハリリー元首相暗殺の実行声明を発表。ただし組織として実在するか否かは確認できない。
マラダ潮流(Tayyār al-Marada)	1968年にフランジーヤ家の民兵組織(ズガルター解放軍[Jaysh Tahrīr Zughartā])として結成。2006年6月に政治組織として正式に発足。スライマーン・フランジーヤ党首。
民主刷新運動(Ḥaraka al-Tajaddud al-Dīmuqrāṭī)	2001年に結成。ナスィーブ・ラッフォード議長。
民主左派運動(Ḥaraka al-Yasār al-Dīmuqrāṭī)	2004年に結成(レバノン共産党から分離)。ナディーム・アブドゥッサマド議長。
民主社会主義党(al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Ishṭirākī)	1970年代に結成。カーミル・アスアド党首(元国民議会議長[1964年5月～1964年10月, 1968年5月～1968年10月, 1970年10月～1984年10月])。
民主人民党(al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Sha'bi)	結成年不明。ナズィーフ・ハムザ党首。
民主ナセル主義者運動 (Ḥaraka al-Nāṣirīyīn al-Dīmuqrāṭīyīn)	結成年不明。ハーリド・ラウワース党首。
民主フォーラム(al-Minbar al-Dīmuqrāṭī)	2001年5月に結成。ハビーブ・サーディク議長。
民主労働者党(al-Ḥizb al-'Ummālī al-Dīmuqrāṭī)	結成年不明。
ムスタクバル潮流(Tayyār al-Mustaḳbal)	1990年代に結成。2005年8月、公認政党としての申請を決定。サアド・ハリリー代表。
ラームガヴァーン党(Ḥizb al-Rāmghafān, 英語名 Ramgavan Party)	1921年にアルメニア人移民が結成。ハゴブ・カサールジャーン最高会議議長。
レバノン・アラブ闘争運動 (Ḥaraka al-Niḍāl al-Lubnānī)	1958年に結成。ファイサル・ダーウード書記長。

政党・政治組織名	概説(結成年月、党首など)
al-ʿArabī)	
レバノン・アル=カーイダ機構 (Tanẓīm al-Qāʿida fī Lubnān)	2001年に結成。アブー・ルシュド・ミーカーティーが指導。
レバノン・イスラーム解放党 (Ḥizb al-Taḥrīr al-Islāmī – Wilāya Lubnān)	1952年にヨルダンで結成されたイスラーム解放党のレバノン「支部」。ムハンマド・ジャービル中央委員会委員長。
レバノン・イスラーム行動戦線 (Jabha al-ʿAmal al-Islāmī fī Lubnān)	2006年8月に結成。ファトヒー・ヤカン議長。
レバノン・イスラーム集団 (al-Jamāʿa al-Islāmīya fī Lubnān)	1964年にトリポリで結成。ファイサル・マウラウィー書記長。
レバノン・カタール党 (Ḥizb al-Katāʿib al-Lubnāniya)	1936年に結成。アミン・ジュマイイル最高党首 (al-Raʿīs al-Aʿlā, 2005年11月に就任), カリーム・バクラードゥーニー党首 (al-Raʿīs, 2005年11月に就任)。2005年11月にカタール党改革運動と統一。
レバノン・クルド民主党 (al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Lubnān, 通称アル・パールティー[al Partī])	1960年に結成。アブドゥルカリーム・ミッファー書記長。
レバノン・タウヒード潮流 (Tayyār al-Tawḥīd al-Lubnānī)	2006年4月に結成。ウィアーム・ワッハーブ代表。
レバノン・マロン派連盟 (al-Rābiʿa al-Mārūniya al-Lubnāniya)	1952年に結成。ミシェル・イッダ会長。
レバノン環境党 (Ḥizb al-Biʿa al-Lubnānī)	2005年1月に結成。ハビーブ・マアルーフ代表。
レバノン共産党 (al-Ḥizb al-Shuyūʿī al-Lubnānī)	1924年に結成したシリア・レバノン共産党を母体とする。ハーリド・ハッダーダ書記長(2004年に就任)。
レバノン軍団 (al-Qūwāt al-Lubnāniya)	1976年にレバノン戦線 (al-Jabha al-Lubnāniya) の民兵組織として結成。2005年に公認政党となる。サミール・ジャアジャア執行委員会議長(1986年にレバノン軍団司令官に就任)。
レバノン国民戦線党 (Ḥizb al-Jabha al-Waṭaniya al-Lubnāniya)	2000年から2001年にかけて結成。アルネスト・カラム党首。
レバノン人逮捕失踪者支援 (Daʿm al-Muʿtaqalīn wa al-Manfiyīn al-Lubnāniyīn, 英語名 Support of Lebanese in Detention and Exile, 略称 SOLIDE)	1989年に結成。ガーズィー・アード会長。
レバノン人民大会 (al-Muʿtamar al-Shaʿbī al-Lubnānī)	1980年に結成。カマール・シャーティーラ議長。
レバノン潮流 (al-Tayyār al-Lubnānī)	2006年11月, 自由国民潮流から離反し結成。サミール・スカーフ党首。
レバノン統一主義者連合 (Tajammuʿ al-Waḥdawīyīn al-Lubnāniyīn)	2006年に活動活発化。サミール・サッバーク議長(ナセル統一主義者運動[Ḥaraka al-Waḥdawīyīn al-Nāṣiriyyīn])。
レバノン民主党 (al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Lubnānī)	2002年に結成。タラール・アルスラーン党首。
労働者連盟 (Rābiʿa al-Shaghīla)	1974年に結成。ザーヒル・ハティーブ議長。

(注) (a) 2000年以降に活動が確認された主な政党・政治組織。

(出所) Abdelnour [2004], Arab Media Watch [2006], Bakri [2005], al-Balad [2006], Baran

[2006], Corstange [2000], Dhibyān [2006], Ghoul [2005], Ḥamīdī [2005], Hamzeh [1997], Hatoum [2005], *al-Ḥayāt* [2005b] [2006b], *al-Ḥiwār* [2006], Khazen [2003], *al-Muḥarrir* [2006], Nayyūf [2006], Rafei [2006], Rosett [2005], *al-Safīr* [2006d], Tachau [1994], Wisām [2001], Zaatari [2005], <http://www.ahrar.org.lb/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.aicp.org/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.amal-movement.com/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.attawhed.org/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.beirutletter.com/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.bethsuryoyo.com/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.broadleft.org/> (2006 年 9 月アクセス), <http://countrystudies.us/lebanon/95.htm> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.democratic-left.org/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.futuremovement.org/forum/> (2006 年 10 月アクセス), http://www.geocities.com/al_mourabitoun/ (2006 年 10 月アクセス), <http://www.hizb-ut-tahrir.info/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.al-jamaa.net/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.kafaat.org/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.kamalchatila.org/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.kdp-lebanon.com/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.lcparty.org/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.lebanese-forces.org/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.lebanese-kataeb.com/modules/news/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.lep.homestead.com/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.maronite-league.org.lb/> (2006 年 9 月アクセス), <http://www.psp.org.lb/> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.tayyar.org/tayyar/index.php> (2006 年 10 月アクセス), <http://www.yasar.org/> (2006 年 10 月アクセス), <http://elmarada.com/ar/> (2006 年 10 月アクセス) などをもとに筆者作成。

(2) 政治同盟^(a)

組織名	概説(結成年, 加盟政党・政治組織, 代表名など)
3 月 14 日勢力(Quwā 14 Ādhār)	2005 年 3 月 14 日, ベイルート市殉教者広場で行われたラフィーク・ハリリー元首相追悼集会に参加したカタールイブ改革運動(レバノン・カタールイブ党), クルナト・シャフワーン会合, 進歩社会主義党(民主会合ブロック), ムスタクバル潮流(ムスタクバル・ブロック), 民主刷新運動, 民主左派運動, レバノン軍団などからなる。ル・ブリストル会合派の後身であり, 2005 年 2 月 14 日のラフィーク・ハリリー元首相暗殺を機に糾合したため, 2 月 14 日勢力(Quwā 14 Shubāt)と呼ばれることもある。なお自由国民潮流は 3 月 14 日のデモに参加したものの, 3 月 14 日勢力には加わらなかった。
3 月 8 日勢力(Quwā 8 Ādhār)	2005 年 3 月 8 日, ベイルート市リヤード・スルフ広場で行われた, シリアとの関係維持・強化と欧米諸国の内政不干渉を求める集会に参加した勢力の通称。アイン・アッ=ディーナ国民会合派の別称・後身。アマル運動(抵抗開発ブロック, 開発解放ブロック), アラブ解放党, アラブ社会主義連合, シリア民族社会党, 人民運動, 人民ブロック, ターシュナーク党, 独立ナセル主義者運動(ムラービトゥーン), ナセル人民機構, バアス党, ヒズブッラー(抵抗への忠誠ブロック), マトン・ブロック, マラダ潮流, レバノン・イスラーム集団, レバノン・カタールイブ党, レバノン民主党などからなる。2006 年 2 月にヒズブッラーと自由国民潮流(変化改革ブロック)が戦略的パートナー

組織名	概説(結成年、加盟政党・政治組織、代表名など)
	ーシップを結んで以降、後者を含む反3月14日勢力全体を指す呼称として用いられることもある。
アイン・アッ=ティーナ国民会合 (Liqā' 'Ayn al-Tīna al-Waṭanī) 派	2005年2月初めに結成。シリアとの関係維持・強化、欧米諸国の内政不干渉を求める。アマル運動(抵抗開発ブロック)、シリア民族社会党、ターシュナーク党、ナセル人民機構、バアス党、ヒズブッラー(抵抗への忠誠ブロック)、レバノン・イスラーム集団、レバノン・カタール党(カタール改革運動との統一以前)、レバノン民主党、第2次ウマル・カラーミー内閣閣僚(北部ブロック、マトン・ブロック、西ベカーア・ラーシャイヤー・ブロック、人民ブロック、トリポリ・ブロック)などからなる。
国民民主連合 (al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī)	2006年6月に結成。ナジャーフ・ワーキーム(人民運動党首)代表。ウサーマ・サアド・ナセル人民機構党首などが参加。
ル・ブリストル会合 (Liqā' Le Bristol) 派	2004年9月に結成。ターイフ合意に基づく駐留シリア軍の完全撤退、シリアの内政不干渉を求める。クルナト・シャフワーン会合、国民自由党、国民ブロック党、進歩社会主義党(民主会合ブロック)、民主刷新運動、民主左派運動、民主フォーラムなどからなる。2005年2月のラフィーク・ハリリー元首相暗殺後、自由国民潮流、ムスタクバル潮流(ベイルート決定ブロック)、レバノン軍団も加わる。
レバノン国民会合 (al-Liqā' al-Waṭanī al-Lubnānī)	2006年6月に結成。ウマル・カラーミー(アラブ解放党党首)代表。エリー・ファルズリー元情報大臣、スライマーン・フランジーヤ・マラダ潮流党首、アルビール・マンスール元国家大臣、ビシャーラ・ムルヒジュ元行政改革担当国家大臣、アブドゥッラヒーム・ムラード・アラブ社会主義連合書記長、ウサーマ・サアド・ナセル人民機構党首、ファーズ・グスン前議員など親シリア勢力からなる組織。
レバノン諸政党国民同盟 (Taḥāluf al-Aḥzāb al-Waṭanīya al-Lubnānīya)	シリア民族社会党のイニシアチブで2006年11月に結成。シリア民族社会党、アラブ社会主義レバノン前衛党、アラブ社会主義連合、人民運動、独立ナセル主義者運動(ムラービトゥーン)、ナセル人民機構、バアス党、民主人民党、民主ナセル主義者運動、レバノン・アラブ闘争運動が参加。

(注) (a) 2000年以降に活動が確認された政治同盟。

(出所) 青山 [2005] [2006a], Elmarada.com [2006], al-Hayāt [2006a], al-Safir [2006b] [2006c], Tachau [1994: 297-368]などをもとに筆者作成。

(3) 主な宗教機関

組織名	宗派	代表名
イスラーム法曹最高会議 (al-Majlis al-Islāmī al-Shar'ī al-A'lā)	スンナ派	ムハンマド・ラシード・カッバーニー共和 国ムフティー
シーア派イスラーム最高会議 (al-Majlis al-Islāmī al-Shī'ī al-A'lā)	シーア派	ムハンマド・フサイン・ファドルッラー副 議長
ドゥルーズ派シャイフ・アクル府 (Mashyakha 'Aql al-Ṭā'ifa al-Durūzīya)	ドゥルーズ派	バフジャト・ガイス師(シャイフ・アクル [shaykh 'aql], 2006年9月に府長を退任)

組織名	宗派	代表名
		ナスルッディーン・グライブ師(2006年9月にタラール・アルスラーン、ウィアーム・ワッハーブラが任命) ナーイム・ハサン師(2006年10月にドゥルーズ教義会議[al-Majlis al-Madhhabi al-Durūzī]が選出)
マロン司教会議(Majlis al-Maṭārīna al-Mārūniya)	マロン派	ナスルッラー・スファイル総大司教

(出所) al-Ḥayāt [2006c], Zayn al-Dīn [2006], <http://www.bkerke.org.lb/> (2006年10月アクセス), <http://www.darfatwa.gov.lb/> (2006年10月アクセス), <http://www.druzenet.org/> (2006年10月アクセス), <http://www.shiitecouncil.com/> (2006年10月アクセス) などをもとに筆者作成。

5. 主な治安組織

名称	概説
総合情報総局 (al-Mudīriya al-‘Āmma li-l-Amn al-‘Āmm)	内務地方行政省所轄。政治、経済、社会情報の収集・解析、メディア検閲、出入国管理などが主な任務。 歴代総合情報総局長： ● レイモン・ルフアイル：在任 1991年1月～1998年12月。少将。 ● ジャミール・サイイド(シーア派)：在任 1998年12月～2005年5月。少将。 ● アスアド・タクシュ：総局長代行(2005年5月～10月)。准将。 ● ワフイーク・ジャズイーニー：現総合情報総局長(2005年10月～)(a)。少将。
内務治安軍総局 (al-Mudīriya al-‘Āmma li-Quwā al-Amn al-Dākhilī)	内務地方行政省所轄。治安警察、司法警察組織。 歴代内務治安軍総局長： ● ムハンマド・クブルスリー：在任 1990年～1993年。少将。 ● ラフイーク・ハサン：在任 1993年～1998年。少将。 ● アブドゥルカリーム・イブラーヒーム(スンナ派)：在任 1998年～2001年。少将。 ● マルワーン・ザイン：在任 2001年～2004年。少将。 ● アリー・ハーッジ：在任 2004年～2005年4月。少将。 ● アシュラフ・リーフィー：現内務治安軍総局長(2005年4月～)。少将。 主な高官： ● ウィサーム・ハサン：情報課(Shu‘ba al-Ma‘lūmāt, 2005年に新設)長。大佐。ムスタクバル潮流メンバー(サアド・ハリリー議員顧問)。
共和国護衛旅団 (Liwā‘ al-Ḥaras al-Jumhūrī)	陸軍所属。 歴代共和国護衛旅団司令官： ● ムスタファー・ハムダーン：前共和国護衛旅団司令官(～2005年9月)。准将

名称	概説
軍情報局 (Mudīriya al-Mukhābarāt fī al-Jaysh)	● ハリール・ムサンヌ: 現共和国護衛旅団司令官 (2005年9月～)。准将。 国軍司令部所轄。治安に関する情報の収集, 外国人の監視, スパイの取り締まりなどを主な任務とする。 歴代軍情報局長: ● レイモン・アーザール: 前軍事情報局長 (～2005年4月)。准将。 ● ジョルジュ・フリー: 現軍事情報局長 (2005年4月～)。准将。 主な高官: ● アッバース・イブラーヒーム: 南部支部 (Far' Mukhābarāt al-Janūb) 長 (2005年5月～)。大佐。 ● イマード・カアクール: 前調査課 (Qism al-Taḥqīq) 長 (～2005年5月)。准将。 ● ジョルジュ・カフワジー: レバノン山地支部 (Far' Mukhābarāt Jabal Lubnān) 長 (2005年5月～)。大佐。 ● ガッサーン・トゥファイリー: 前傍受課 (Qism al-Tanaṣṣut) 長 (～2005年5月)。大佐。親ヒズブッラー。 ● ガッサーン・ハキーム: ベカーア支部 (Far' Mukhābarāt al-Biqā') 長 (2005年5月～)。大佐。 ● フサイン・ハミーヤ: 戦闘大隊 (Fawj al-Mukāfaḥa) 長 (2005年5月～)。大佐。 ● アイドゥー・ファドゥール: 調査課長 (2005年5月～)。大佐。 ● サースィーン・ムルイブ: 傍受課長 (2005年5月～)。中佐。
国家治安総局 (al-Mudīriya al-‘Āmma Amn al-Dawla)	最高国防会議 (al-Majlis al-A‘lā li-l-Difā‘)^(b) 所轄。 歴代国家治安総局長: ● ナビーフ・ファルハート: 在任 1988年11月～1998年12月。少将。 ● エドワール・マンスール: 在任 1998年12月～2005年5月。少将。 ● ハサン・ファウワーズ: 前総局長代行 (2005年5月～10月)。准将。 ● イリヤース・カイーカーティ: 現総局長代行 (2005年10月～)。准将。 主な高官: ● マーヒル・トゥファイリー: 次長。大佐。

(注) ^(a) 2006年9月から10月にかけて, アフマド・ファトファト内務地方行政大臣代行と対立し, 一時解任され, その間, ダッラール・ラフバーニー准将が総合情報総局長代行を務める。

^(b) 国の国防政策を定める会議。大統領が議長を, 首相が副議長を務める。2007年1月現在, サイド・イード少将が書記長を務める。

(出所) *al-Wifāq* [2005], *The Daily Star* [2006], *al-Hayāt* [2006d], MEIB [1999], <http://www.isf.gov.lb/Arabic/Headder/Home+Page/> (2006年10月アクセス), <http://www.general-security.gov.lb/index1.htm> (2006年10月アクセス), <http://www.lebarmy.gov.lb/> (2006年10月アクセス), <http://www.state-security.gov.lb/> (2006年10月アクセス)などを参照。

6. ヒズブッラー

(1) 諮問会議 (Majlis al-Shūrā)

氏名	役職
ハサン・ナスルッラー ^(a)	書記長
ナイーム・カーシム ^(b)	副書記長
ハーシム・サフィーフディーン ^(a)	執行会議議長
イブラーヒーム・サイイド ^(a)	政治会議議長
フサイン・ハリール ^(c)	議会活動会議議長
ムハンマド・ヤズバク ^(b)	司法会議議長
不明 ^(d)	ジハード会議議長

(注) ^(a) 党内での敬称は「サイイド」。

^(b) 党内での敬称は「シャイフ」。

^(c) 党内での敬称は「ハーッジ」。

^(d) Intelligence and Terrorism Information Center [2003]はイマード・ムグニヤがジハード会議議長を務めてきたと断じているが、近年彼の党内外での活動は確認されていない。

(出所) Hamzeh [2004: 45-48], Intelligence and Terrorism Information Center [2003], Qāsim [2002: 81-119], Interview, Anonymous, Beirut, December 30, 2006 などをもとに筆者作成。

(2) 主な党員および部局・役職

部局	役職	氏名
執行会議 (al-Majlis al-Tanfīdhī)	議長	ハーシム・サフィーフディーン ^(a)
	社会部門 (waḥda) 長	フサイン・ズアイティル ^(b)
	社会部門内建設ジハード機構 (Mu'assasa Jihād al-Binā') 長	イブラーヒーム・イスマーイール ^(b)
	社会部門内殉教者機構 (Mu'assasa al-Shahīd) 長	フサイン・シャーマー ^(c)
	社会部門内負傷者機構 (Mu'assasa al-Jarḥa) 長	アブー・ファドル ^(c)
	社会部門内ホメイニー支援委員会 (Lajna Imdād al-Khomaynī) 委員長	アリー・ズライク ^(c)
	イスラーム衛生委員会 (al-Hay'a al-Ṣiḥḥīya al-Islāmīya) 委員長	アッバース・フツブッラー ^(c)
	教育動員 (al-Ta'bi'a al-Tarbawīya) 部門長	ユースフ・マルイー ^(c)
	情報 (al-I'lāmīya) 部門長	ハサン・イズツッディーン ^(c)
	組合部門長	ハーシム・シャルハブ ^(c)
	渉外部門長	アリー・ダウーン ^(b)

部局	役職	氏名
	財務部門長	スルターン・アスアド ^(c)
	連絡調整 (al-Irtibāṭ wa al-Tansīq) 部門長	ワファー・フタイト
	前連絡調整部門長	ワフィーク・サファー ^(c)
政治会議 (al-Majlis al-Siyāsī)	議長	イブラーヒーム・サイイド ^(a)
	副議長	マフムード・カマーティ ^(c)
	安全地帯委員会委員長	アブドゥルマジード・アンマール ^(c)
	イスラーム情勢委員会委員長	ムハンマド・カウサラーニー ^(b)
	渉外関係担当官	ナウワーフ・ムーサウィー ^(a)
	パレスチナ情勢委員会委員長	ハサン・フドルージュ ^(c)
	その他 (不明)	ハサン・ファドルッラー ^(a)
		ムハンマド・フナイシュ ^(c)
		ハサン・イッズッディーン ^(c)
		ムハンマド・アフィーフ ^(c)
		ガーリブ・アブー・ザイナブ ^(c)
		ハドル・ヌールッディーン
		リーマー・ファブリー
		アフマド・マッリー
議会活動会議 (Majlis al-'Amal al-Niyābī)	議長, ハサン・ナスルッラー 書記長付政務補佐官	フサイン・ハリール ^(c)
司法会議 (al-Majlis al-Qaḍā'ī)	議長	ムハンマド・ヤズバク ^(b)
ジハード会議 (al-Majlis al-Jihādī)	議長	不明 ^(d)
中央委員会 (al-Majlis al-Markazī) ^(e)	(元国民議会議員)	アブドゥッラー・カイサル
	(党学術文献センター[al-Markaz al-Akādīmī li-l-Tawthīq]所長)	アリー・ファイヤード
		ビラール・ナイーム アクラム・バラカート
その他	南部地域 (Minṭaqa al-Janūb) 代表	ナビール・カーワーク
	抵抗への忠誠ブロック代表	ムハンマド・ラアド
	メディア報道官	フサイン・ラッハール
	メディア報道官	ガッサーン・ダルウィーシュ

(注) ^(a) 党内での敬称は「サイイド」。

^(b) 党内での敬称は「シャイフ」。

^(c) 党内での敬称は「ハーッジ」。

^(d) Intelligence and Terrorism Information Center [2003]はイマード・ムグニヤがジハード会議議長を務めてきたと断じているが、近年彼の党内外での活動は確認されていない。

^(e) 約 200 人の党員から構成される。

(出所) Intelligence and Terrorism Information Center [2003], Qāsim [2002: 81-119], Interview, Anonymous, Beirut, December 30, 2006 などをもとに筆者作成。

(3) レバノン・イスラーム抵抗 (al-Muqāwama al-Islāmīya fī Lubnān)

「レバノン紛争」で戦闘に参加したと考えられる政党・政治組織

ヒズブッラー

アマル運動

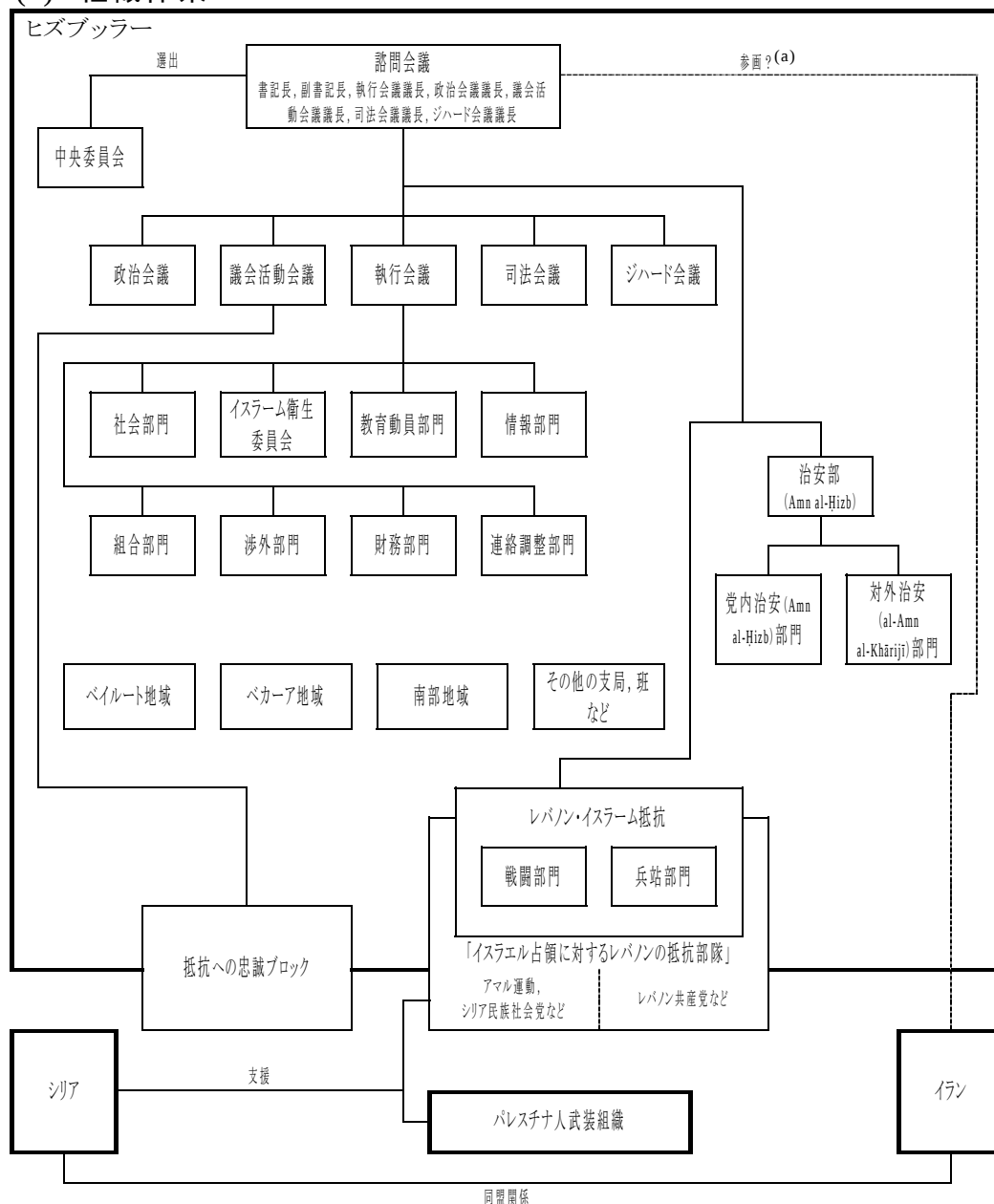
シリア民族社会党

バアス党

レバノン共産党

(出所) NNA [2006c], *al-Safīr* [2006a], Sirḥāl [2006], Interview, Anonymous, Lattakia, September 5, 2006, Interview, Anonymous, Beirut, December 30, 2006 などをもとに筆者作成。

(4) 組織体系



(注) (a) Intelligence and Terrorism Information Center [2003]は諮問会議がイラン人顧問 2 人を含む計 9 人からなると断じているが、ヒズブッラーは否定している。

(出所) Hamzeh [2004: 44-79], Intelligence and Terrorism Information Center [2003], Qāsim [2002: 81-119], http://www.bintjbeil.com/articles/2004/ar/0414_qaseer.html (2006 年 12 月アクセス), Interview, Anonymous, Beirut, December 30, 2006 などをもとに筆者作成。

文献リスト

<日本語文献>

- 青山弘之 [2005] 「レバノン——シリア軍撤退の「意義」——」『世界』第 740 号 (6 月), 216~223 ページ。
- [2006a] 「第 17 期レバノン国民議会選挙 (2005 年) ——シリア軍撤退後のレバノンにおける政治力学——」『国際情勢季報』第 76 号 (2 月), 271~292 ページ。
- [2006b] 「第 17 期レバノン国民議会選挙結果」『現代の中東』第 40 号 (1 月), 32~61 ページ。

<外国語文献>

- Abdelnour, Ziad K. [2004] “The US and France Tip the Scale in Lebanon’s Power Struggle,” MEIB, Vol.6 , Nos. 6/7 (June/July).
- ‘Allām, ‘Alī Muḥammad [1997] *Dalīl al-Nā’ib al-Lubnānī* 1996. Beirut: Markaz 3A li-l-Dirāsāt.
- Arab Media Watch (<http://www.arabmediawatch.com/>) [2006] “Political Parties in Lebanon,” September 23.
- ArabicNews.com (<http://www.arabicnews.com>) [2000a] “On the Lebanese Parliamentary Elections,” June 28.
- [2000b] “Berri Reelected as Speaker of the Lebanese Parliament,” October 18.
- Bakri, Nada [2005] “Activists Create Lebanese Environment Party: Group to Introduce ‘Green’ to Politics,” *The Daily Star*, February 1.
- al-Balad* [2006] “Waḥḥād: Ilghā’-nā min Sābi’ al-Mustaḥīlāt,” April 2.
- Baran, Zeyno [2006] “Muslim Brotherhood Takes up Arms: In Support of Hizbullah,” Counterterrorism Blog (<http://counterterrorismblog.org/>), August 2.
- Corstange, Dan [2000] “Lebanon: The Party System from 1963 to 2000” (<http://janda.org/icpp/ICPP2000/Countries/7-MiddleEastNorthAfrica/76-Lebanon/Lebanon63-00.htm>, 2006 年 10 月アクセス).
- The Daily Star* [2006] “Amal Flays Fatfat for Suspending General Security Chief,” September 23.
- Dhibyān, Kamāl [2006] ““Tajammu’ al-Waḥdawīyīn al-Lubnānīyīn” lā Tantamī ilā 8 wa 14 Ādhār, Samīr Šabbāgh: Qarībūn min al-Mu’āraḍa wa Nu’ayyidu al-Muqāwama,” *al-Diyār*, September 23.
- Elmarada.com (<http://elmarada.com/ar/>) [2006] “Wākīm Yu’linu “al-Tajammu’ al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī,” June 29.
- Ghoul, Adnan El- [2005] ““Third Force’ Discusses Founding Declaration: Hoss Describes the New Party as a New Political Action,” *The Daily Star*, March 4.

- Ḥamīdī, Ibrāhīm [2005] “Kushifa Makhba’ Mutafajjirāt fī Lubnān ... Ishtibāk Qūwāt Sūriya wa “Jund al-Shām” fī Minṭaqa Qarība min Ḥudūd Lubnān,” *al-Ḥayāt*, August 23.
- Hamzeh, Ahmad Nizar [1997] “Islamism in Lebanon: A Guide to the Groups,” *Middle East Quarterly* (<http://www.meforum.org/>), Vol. 4, No. 3 (September).
- [2004] *In the Path of Hizbullah*. Syracuse: Syracuse University Press.
- Hatoum, Majdoline [2005] “Future Movement Determined to Become Official Political Party: ‘We Have to Start Preparing Our Supporters for a Healthy Political Life Instead of Waiting around for a New Party Law’,” *The Daily Star*, August 12.
- al-Ḥayāt* [2005a] “Ablagha Zawja Ja’ja’ anna-hu Sa-Yakūnu Ṭalīqan qabla 25 Tammūz ḥattā law lam Tuṣawwit “al-Qūwāt” la-hu ... Birrī Ra’īsan li-l-Barlamān al-Yawm bi-97 Ṣawtan wa 30 Waraqa Baydā’,” June 28.
- [2005b] ““al-Munāḍilūn min Ajl Waḥda wa Ḥurrīya Bilād al-Shām” Tu’linu Mas’ūliya-hā,” December 13.
- [2006a] “Bayān-hu al-Ta’sīsī Ya’tabiru anna “Iḡtiyāl al-Ḥarīrī Ustikhdima li-Khalq Istiqtāb Madhhabī Yataqāṭa’u ma’a Maṣāliḥ Isrā’īl” ... 25 Shakhṣīya Mu’āriḍa Tuṭliq “al-Liqā’ al-Waṭanī al-Lubnānī,”” June 7.
- [2006b] “Majhūl Yuhaddidu Maktab “MBC bi-Isim “Anṣār al-Sunna,”” June 10.
- [2006c] “Yantakhibūna Majlis al-Madhabīyan li-l-Marra al-Ūlā mundhu 40 ‘Āman ... Arslān Yu’ayyinu Shaykh ‘Aql li-l-Durūz Istibāqan li-Intikhāb-hi wifqa al-Qānūn al-Jadīd,” September 25.
- [2006d] “Ijtimā’ Amnī Muwassa’ fī Ri’āsa al-Ḥukūma Yaḍa’u Ḥallan li-Mushkila Rabṭ al-Ajhiza Ma’lūmātīyan,” September 30.
- al-Hiwār* [2006] “Muqābala Ra’īs Ḥizb al-Ḥiwār al-Waṭanī al-Muhandis Fu’ād Makhzūmī ma’a Majalla “Ṣudā al-Mujtama’,”” October 6.
- Intelligence and Terrorism Information Center, Center for Special Studies (CSS) (<http://www.intelligence.org.il/>) [2003] *Hezbollah: Profile of the Lebanese Shiite Terrorist Organization of Global Reach Sponsored by Iran and Supported by Syria* (Special Information Paper), June.
- Khazen, Farid [2003] “Political Parties in Postwar Lebanon: Parties in Search of Partisans,” *The Middle East Journal*, Vol. 57, No. 4 (Autumn), pp. 605-624.
- MEIB (Middle East Intelligence Bulletin, <http://www.meib.org/>) [1999] “Lahoud Surrenders Lebanon’s Defenses to Syria,” Vol. 1, No. 1 (January).
- al-Muḥarrir* (<http://al-moharer.net/>) [2006] “al-Duktūr ‘Abd al-Majīd al-Rāfi’ī Yu’linu Isti’nāf al-Nashāt al-Siyāsī ‘abra “Ḥizb Ṭalī’a Lubnān al-‘Arabī al-Ishtirākī,”” Vol. 15, Nos. 243/244/245 (June).
- Nāṣīf, Niqūlā and Rūzānā Bū Munṣīf [1996] *al-Masraḥ wa al-Kawālīs: Intikhābāt 96 fī Fuṣūl-hā*. Beirut: Dār al-Nahār.
- Nayyūf, Ḥiyān [2006] “Khubarā’ Yakshifūna li-l-‘Arabīya.Net Ma’lūmāt ‘an Za’īm Tanẓīm al-Qā’ida fī Lubnān,” *al-‘Arabīya* (<http://www.alarabiya.net/>), September 12.
- NNA (National News Agency) [2006a] “Amal wa Ḥizb Allāh A’lanā Istiḳāla Wuzarā’-him min al-Ḥukūma,” November 11.
- [2006b] “al-Wazīr Ṣarrāf A’lana Istiḳāla-hu min al-Ḥukūma fī Kitāb ilā al-Ra’īs al-Sinyūra,” November 13.
- [2006c] “Qānṣū Da’a ilā Waqf al-Mudāhamāt li-l-Qawmīyīn al-Ijtimā’īyīn fī al-Kūra,” December 21.
- Qāsim, Na’īm [2002] *Ḥizb Allāh: al-Manhaj .. al-Tajriba .. al-Mustaqbal*. Beirut: Dār

- al-Hādī.
- Rafei, Raed El [2006] “Army Arrests Four Suspected of Smuggling Arms from North,” *The Daily Star*, January 9.
- Rosett, Claudia [2005] “Lebanese Democrats Under Siege,” *The New York Sun*, March 10.
- al-Safīr* [2006a] “al-Ḥizb al-Shuyū‘ī fī Taqrīr Shāmil: 1701 Tadwīl wa Hazīma Siyāsīya li-Ṣumūd al-Muqāwama,” September 28.
- [2006b] “<al-Liqā’ al-Waṭanī> wa <al-Tajammu’ al-Dīmuqrāṭī>,” Karāmī: al-Ajwā’ al-Mulabbada Tundhiru bi-Sharr Mustatīr,” October 4.
- [2006c] “I’lān <Taḥāluf al-Aḥzāb> al-‘Ashara,” November 3.
- [2006d] “Munshaqq ‘an <al-Tayyār> Yakhtalifu ma’a Anṣār-hi fī Mu’tamar Ṣaḥāfī li-I’lān al-Inshiqāq,” November 4.
- Sirḥāl, Muḥīd [2006] “al-Qawmīyūn Kānū fī ‘Ayn al-Ṣirā’ Mashārī’ Shuhadā’ khilāla al-‘Adwān Majmū’a min al-Muqātilīn Wajjahū Ḍarba Qāsiya li-Dabbābāt al-‘Adū fī Marja’ayūn,” *al-Diyār*, September 6.
- Sālim, Būl ed. [1998] *al-Intikhābāt al-Niyābīya 1996 wa Azma al-Dīmuqrāṭīya fī Lubnān*. Beirut: al-Markaz al-Lubnānī li-l-Dirāsāt.
- Tachau, Frank ed. [1994] *Political Parties of the Middle East and North Africa*. Westport: Greenwood Press.
- al-Wifāq* [2005] “Ta’yīnāt Jadīda fī al-Ajhiza al-Amnīya al-Lubnānīya: Sa’d al-Ḥarīrī Yatawaqqa’u Inqilāban Abyaḍ wa al-Murāqibūn al-Ūrūbbīyūn Yantashirūna li-l-Ishrāf ‘alā al-Intikhābāt,” May 18.
- Wisām, Sa’āda [2001] ““Ḥurrās al-Arz”: Min Till al-Za’tar ilā “al-Intarnit”, Isrā’īl Ṣadīq .. Sūriyā ‘Adūw .. wa al-Filasṭīnīyūn Yajibu Ibāda-hum Daf’a Wāḥida,” *al-Safīr*, August 25.
- Zaatari, Mohammed [2005] “Sidon Cleric Receives Threatening Message from Islamic Group,” *The Daily Star*, December 7.
- Zayn al-Dīn, Khaldūn [2006] “Na’īm Ḥasan ... Shaykh ‘Aql bi-al-Tazkiya li-l-Ṭā’ifa al-Durūziya wa al-Majlis al-Madhahbī Yu’linu Fawz-hu Rasmīyan fī 5 t 2,” *al-Safīr*, October 16.